

平成24年度学生生活実態調査報告書（別冊）

－学生生活実態調査報告概要－



まえがき

本学では、平成 24 年 7 月 1 日を調査基準日とし、学部学生、大学院生、外国人留学生を対象とした「学生生活実態調査」を実施しました。調査の目的は、本学に在学する学生の皆さんの生活環境等の現状を把握するとともに、修学指導上の基礎資料を得ることにより、今後の福利厚生施策の充実と教育研究環境の改善等に役立てようとするものです。この調査は、アンケート方式により三年ごとに実施されており、今回で第 9 回目となりました。

調査項目は、生活環境から大学での授業や課外活動、そして日常生活における悩みや進路・就職相談など、広い範囲に及んでいます。特に今回は、従来の内容に加えて、授業以外での学習の状況や海外留学、インターンシップ、そしてキャリアセンターや学習支援室についての調査も行いました。また、キャンパスハラスメントに関し、一歩踏み込んだ質問項目を設け、回収方法についても配慮しました。これらは、大学教育が変革期を迎えており、教える・教わるといった教育者中心から、自ら学ぶといった学習者中心に重点を置くことと、グローバル化の視点を持った対応が必要であり、さらには人間関係やメンタルヘルスの面で、その実態を捉えておくべきと考えたことによります。

アンケート調査の集計結果は、平成 24 年 12 月に調査報告書として冊子体にまとめるとともに、その内容を学内向けのホームページ上に公表しております。また、調査報告書は 224 ページにも及んでおりますので、今回の調査結果の概要をわかりやすく紹介することが好ましいと判断し、調査報告書（別冊）としてこの「学生生活実態調査報告概要」を作成しました。調査報告書とともに今後の大学教育の改善・充実に役立てればと考えております。

最後になりますが、調査にご協力いただきました多くの学生の皆様に、この場を借りて深くお礼申し上げます。

平成 24・25 年度学生委員会

委員長	鶴田隆治
戸畑キャンパス	田川善彦，中村雅之，中司賢一
飯塚キャンパス	乃万 司，西野和典，坂本 寛
若松キャンパス	夏目季代久，栗生修司
学務部	内山修一

目 次

A. 調査を依頼した人たち	1
B. 住居と通学	1
C. 食事	3
D. 経済状況, 経済支援	4
E. 学生生活	8
F. 学習状況, 学習支援	11
G. 課外活動 (日本人学生)	13
H. 留学	15
I. ボランティア活動	17
J. 自主的活動支援	18
K. 悩み, 健康等	20
L. 進路, 就職支援	24
M. 危機管理支援	28
N. おわりに	28

A. 調査を依頼した人たち

回収率は 63.1%

九州工業大学に在籍する学生諸君の生活・学習環境等の現状を把握し、今後の福利厚生施策の充実、教育研究環境の改善等に役立てるため、本学の学部学生、大学院生、外国人留学生を対象に「学生生活実態調査」を実施しました。

この調査は3年に1度実施しているもので、平成24年度は7月1日を基準日として調査を実施したところ、3,700人から回答があり、回収率は63.1%でした。

調査にあたって、回答にご協力いただいた学生の皆さんに感謝いたします。

回答者の内訳

		対象学生数 人	回 収 数 人	回 収 率 %
学 部	工 学 部	2,379	1,582	66.5
	情 報 工 学 部	1,862	844	45.3
学 部 計		4,241	2,426	57.2
大学院	工 学 府	694	544	78.4
	情 報 工 学 府	437	353	80.8
	生命体工学研究科	319	253	79.3
大 学 院 計		1,450	1,150	79.3
外 国 人 留 学 生		171	124	72.5
合 計		5,862	3,700	63.1

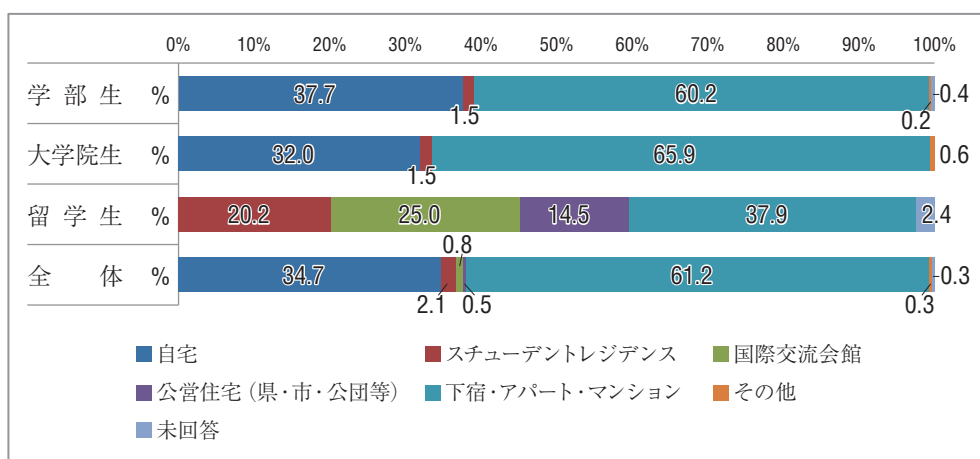
B. 住居と通学

■住居について

約 35%が自宅生、留学生は約 60%が学内や公的施設に入居

自宅通学している学生の割合は、学部生で37.7%、大学院生で32.0%であった。下宿・アパート・マンションに入居している割合は、学部生で60.2%、大学院生で65.9%であった。一方、留学生については20.2%がスチューデントレジデンス(飯塚キャンパス)、25.0%が国際交流会館(戸畑キャンパス)に入居しており、計45.2%が大学関係の施設に入居している状況である。また、14.5%が公営住宅に入居しており、一般の下宿・アパート・マンションに入居する留学生の割合は37.9%と、学部生・大学院生の6割強と比べて少ない。

現在の住居区分



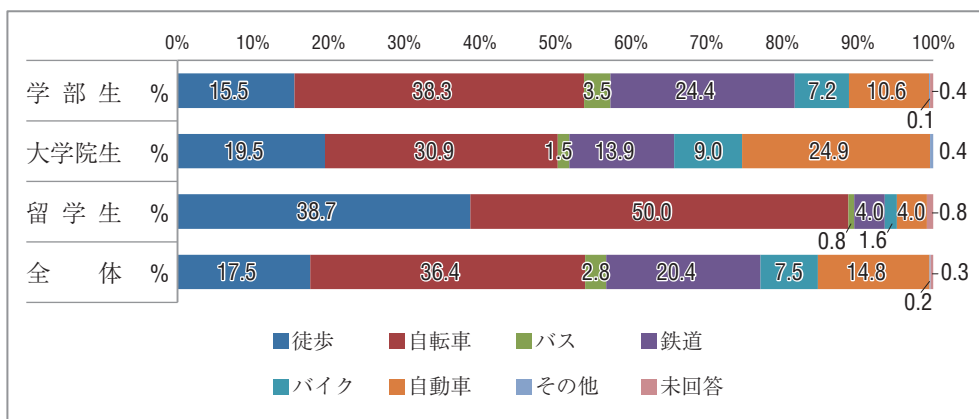
■通学について

自転車の利用が 36.4%と最も多い

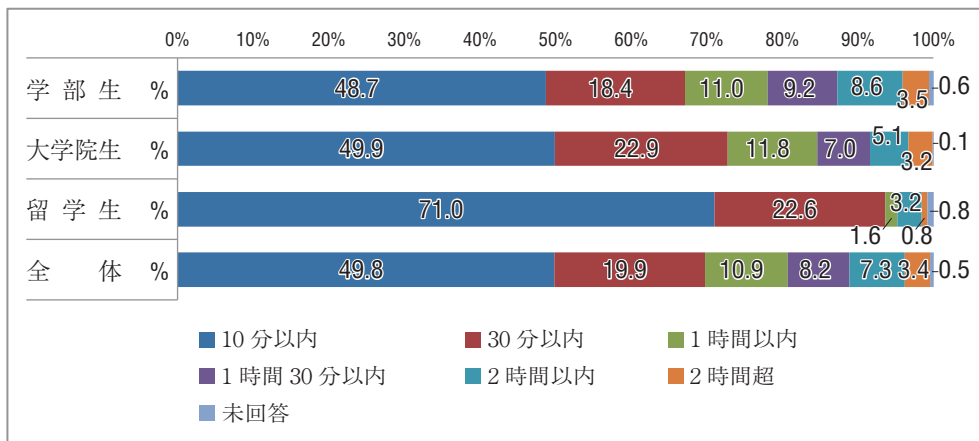
通学手段として自転車を利用しているのは学部生が 38.3%，大学院生が 30.9%，留学生が 50.0%といずれも割合が最も高かった。戸畑キャンパスでは学内での駐輪問題も恒常化しているが、学生にとって最も身近な移動手段が自転車であるという前提の下で対策を進める必要がある。学部生については 15.5% が徒歩で通学しており、自転車と合わせて 53.8%となる。一方、下宿・アパート・マンションに居住している 60.2%と比べるとその割合が小さく、10 人に 1 人程度はバス、鉄道、バイク・自動車等の移動手段を要するところに下宿・アパート・マンションを借りていることになる。大学院生については徒歩と自転車の合計が 50.4%となる一方、24.9%と 4 人に 1 人が自動車で通学し、バイクと合わせると 33.9%となる。留学生については徒歩 38.7%，自転車 50.0%で、合計が約 9 割となる。スチューデントレジデンス・国際交流会館に 45% が入居している他、留学生の大半は大学近辺に住居を確保できていることを示している。

通学時間については、10 分以内が学部生で 48.7%，大学院生で 49.9%，留学生は 71.0%となっている。30 分以内まで含めると学部生は 67.1%，大学院生は 72.8%，留学生は 93.6%と、かなり高い割合となっており、都市圏の大学に比べ良好な通学環境であると考えられる。一方、1 時間以上の通学時間を要する学生も学部生で 21.3%，大学院生で 15.3%となっており、また、留学生にも 1 時間半以上の通学時間を要する学生が 4%いることがわかる。

通学手段



通学時間



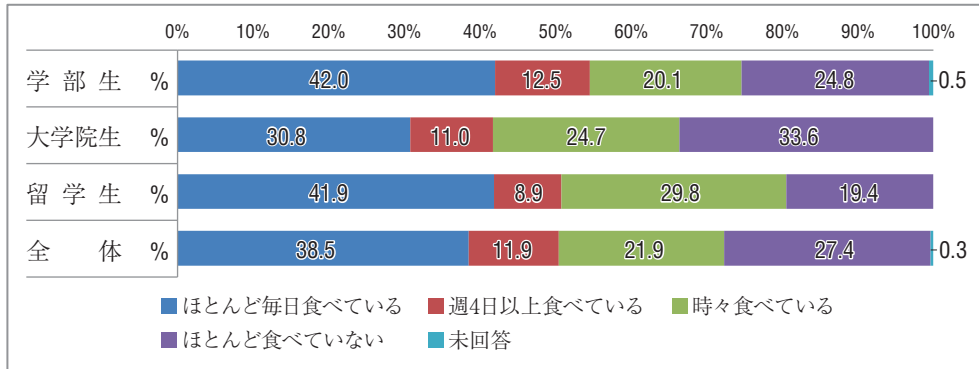
C. 食事

■朝食について

朝食習慣は半数に留まる

朝食については、週4日以上食べている者が、学部生では半数以上を占めるが、大学院生、留学生では少なくなっており、全体としては半数を切っているのが気になるところである。

朝食を食べていますか



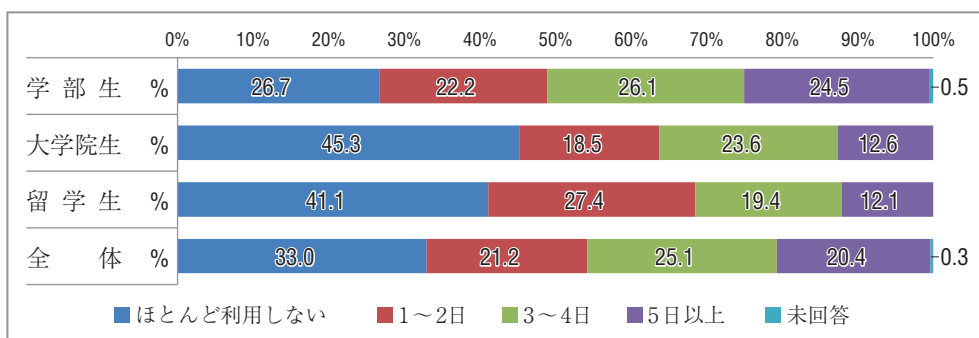
■校内食堂の利用について

大学院生・留学生の利用頻度が意外と少ないながらも、評価は普通以上

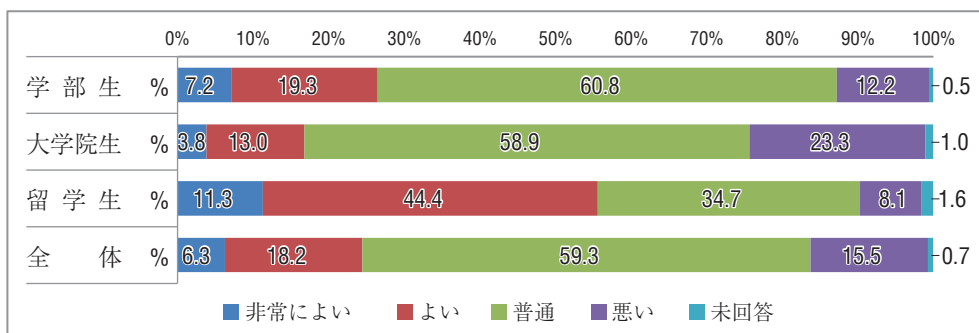
校内食堂をほぼ毎日利用する者は、全体としては2割程度であり、大学院生、留学生の利用比率は、学部生より少ない。院生は飽きるのかもしれないが、留学生は食習慣の違いなどで、利用しにくいかもしれない。（要望に対する「その他」の回答が多いことから、この点が推察される。）

評価については、「普通」以上の回答が全体で8割以上を占め、おおむね満足していると思われるが、混雑の解消と低価格化への要望が強い。

利用頻度



評価



D. 経済状況、経済支援

■収入と支出状況について

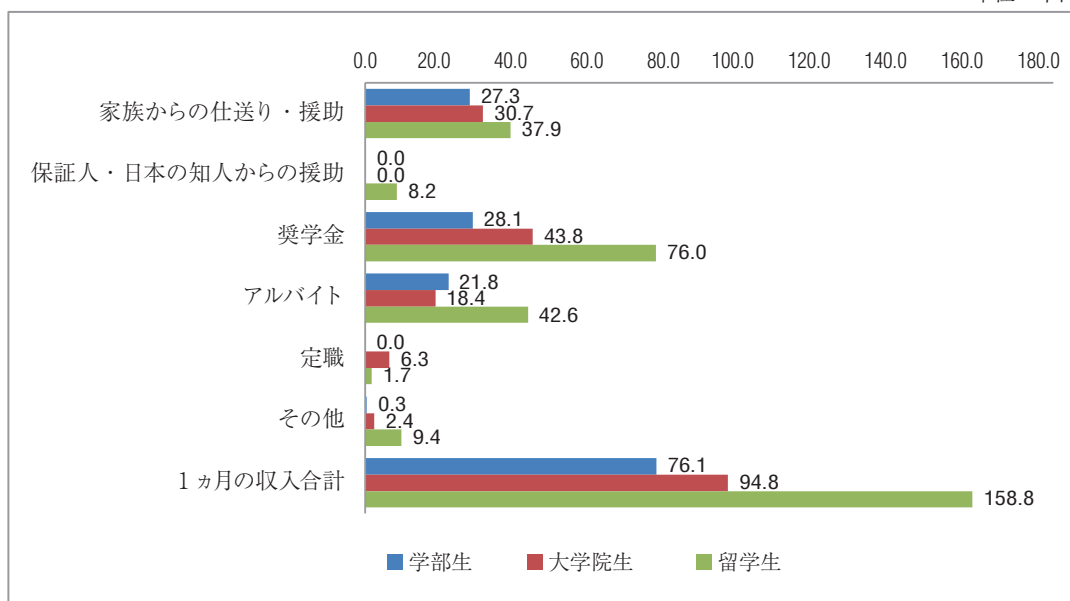
奨学金収入は、学部生 37%，院生 46%，留学生 48%。留学生は娯楽よりも修学費に多く支出している

1ヶ月の平均収入・支出とも、学部生、大学院生、留学生の順に多くなる傾向にあり、留学生の収入・支出は学部生の2倍以上になっているが、これは自宅生の割合に関係するものと思われる。収入に占める奨学金の割合は、学部生が約37%であるが、大学院生と留学生はそれぞれ46%と48%とほぼ同じである。次に、学部生、大学院生は、家族からの仕送り・援助が32～36%，アルバイトが19～29%である。一方、留学生はアルバイト収入が約27%，家族からの仕送り・援助24%の順である。支出をみると約60%が食費・住居光熱費用であり、金額でみると留学生は学部生、大学院生の2倍以上になっている。また、留学生では修学費への支出が多いのに対して、学部生、大学院生は修学費よりも娯楽費への支出が多くなっている。

家庭の年間収入額は、回答した学生だけでみると、学部生、大学院生、留学生において大差なく、「401万円～600万円」、「201万円～400万円」、「601万円～800万円」と回答した学生がそれぞれ約20%であるが、約10%の学生は「200万円未満」と回答しており、財政的に厳しい状況にある。

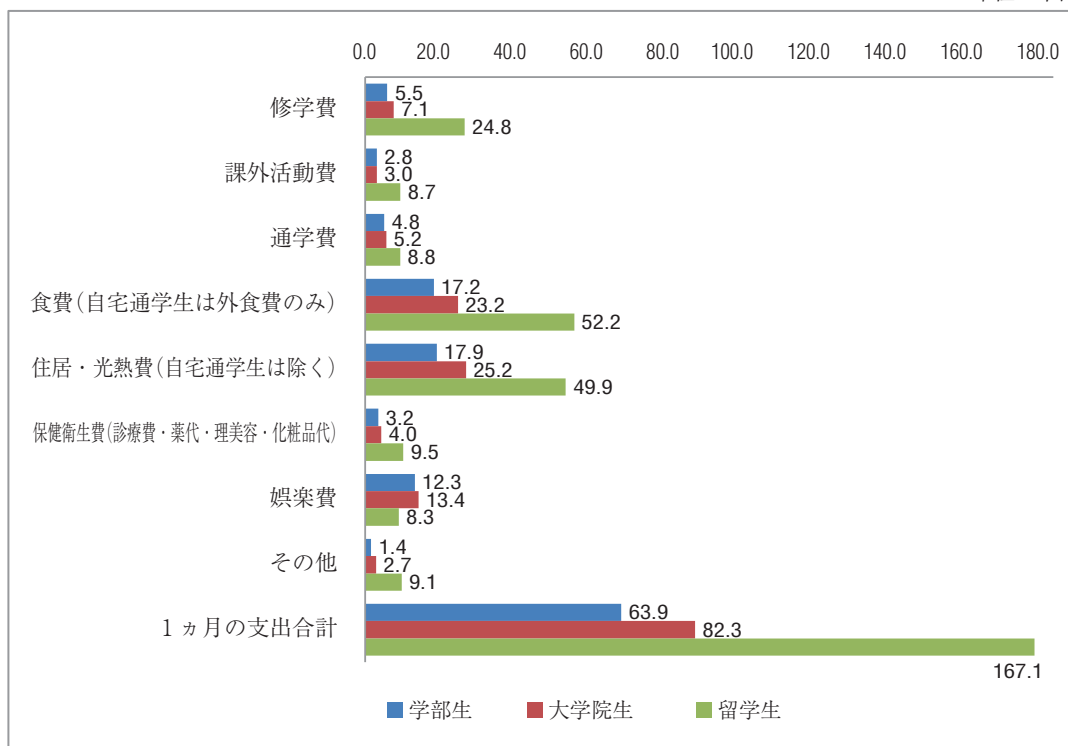
収 入

単位：千円

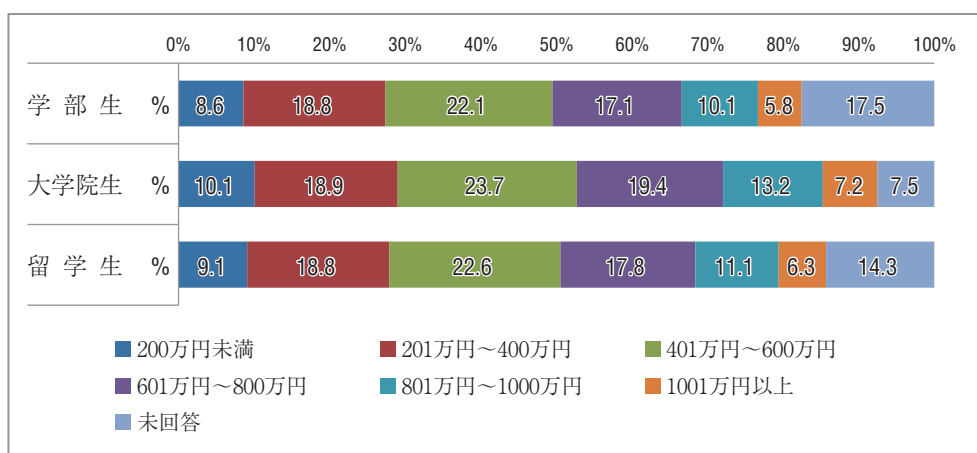


支 出

単位：千円



家庭の年間収入額



■アルバイトについて

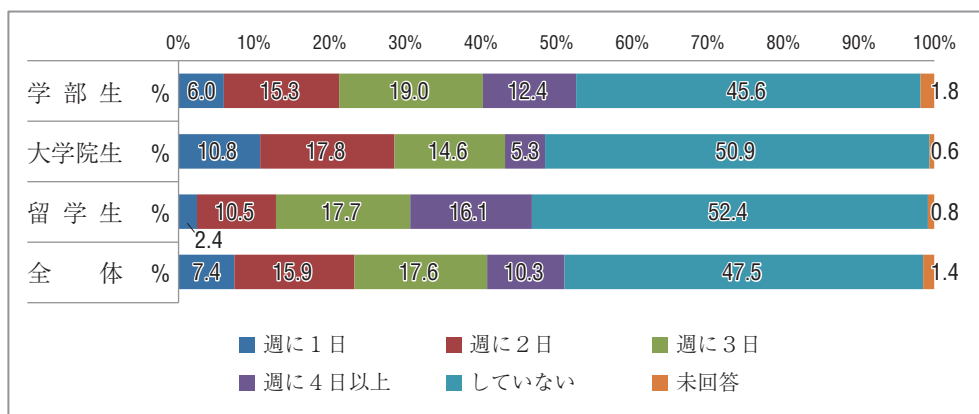
約半数の学生がアルバイトをしているが、その4割が学業への支障を感じている

50%前後の学生がアルバイトをしており、「週に2または3日」と回答した学生が多い。学部生は「週に4日以上」アルバイトする学生が10%強に達するのに対して、大学院生は「週に1回」が10%強となっており、研究活動に専念する姿が伺える。

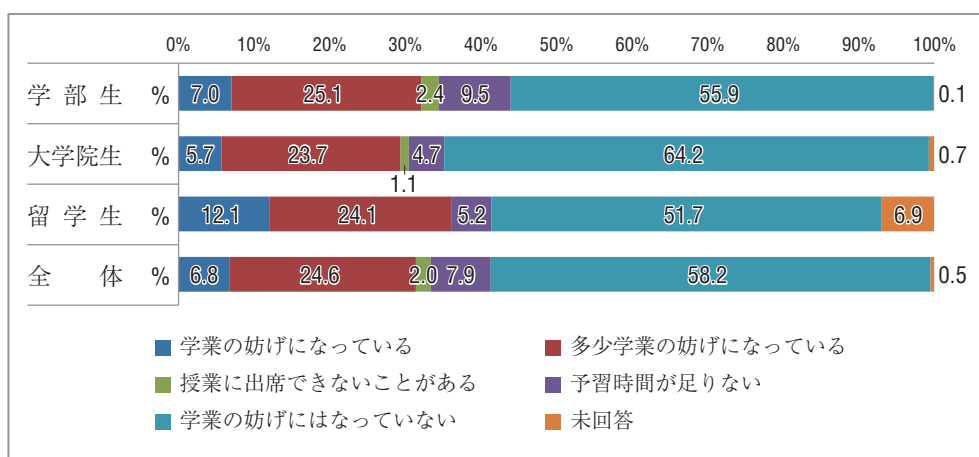
留学生の34%は「週に3または4日」、10%が「週に2日」アルバイトに従事しており、経済的に厳しい様子が分かる。

約6割の学生はアルバイトが「学業の妨げになっていない」と回答しているが、残りの約4割の学生はアルバイトによって学業に何らかの支障を感じている。

アルバイトの回数



アルバイトと学業の関係

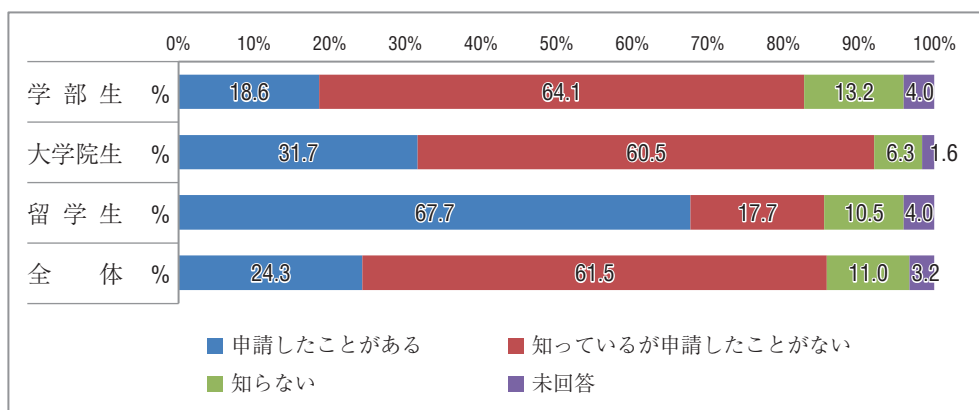


■入学科・授業料免除について

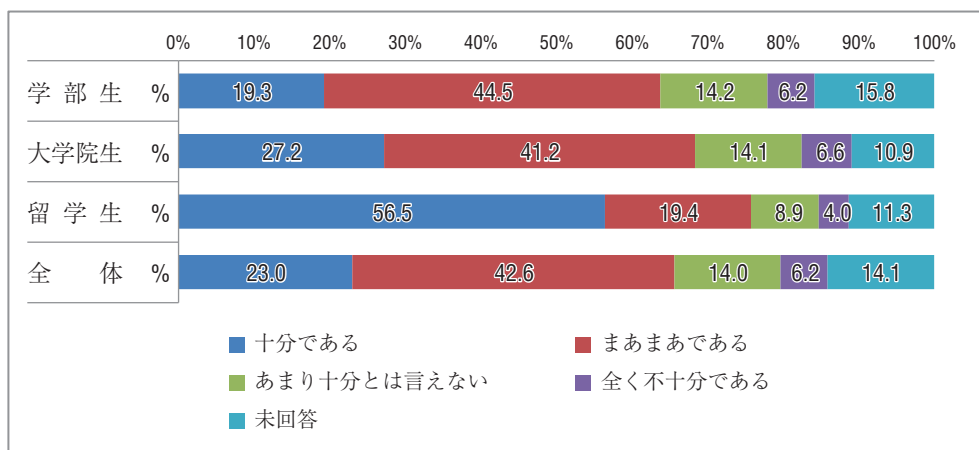
免除制度はほぼ認知されている

「制度を知らない」と回答した学生が10%前後存在している。「知っているが申請したことがない」と回答した学生は学部生、大学院生は約60%、留学生では約20%である。申請した学生のうち約70%は「十分である」、「まあまあである」と回答しており、充実していると思われる。

制度の認知度



制度の満足度

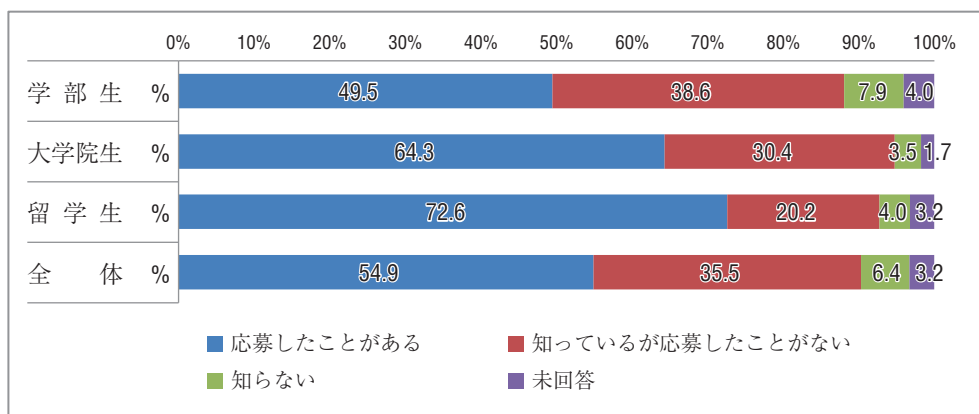


■各種奨学金について

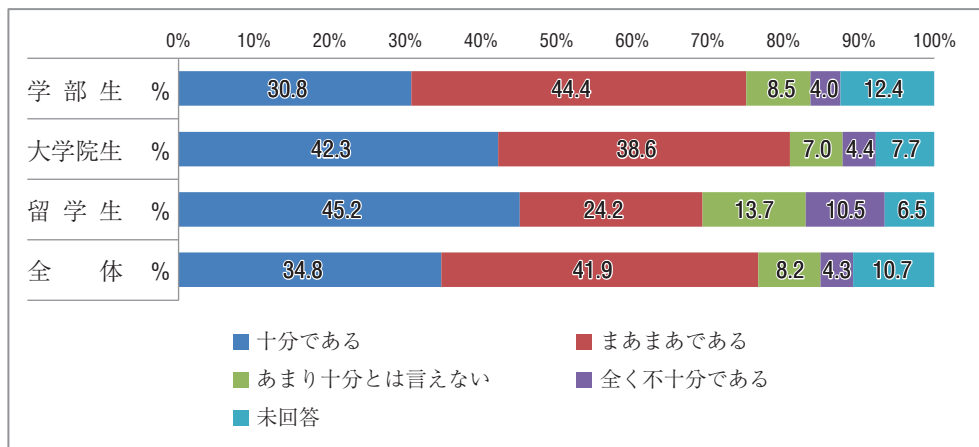
奨学金の認知度も高く、一定の評価が得られている

「知っているが応募したことがない」と回答した学生は学部生約 40%，大学院生は約 30%，留学生では約 20%である。「応募したことがある」学生は学部生約 50%，大学院生は約 60%，留学生では約 70%である。応募した学生のうち各種奨学金の満足度は「十分である」，「まあまあである」を合わせると約 80%を示し，充実していると思われる。

認知度



満足度



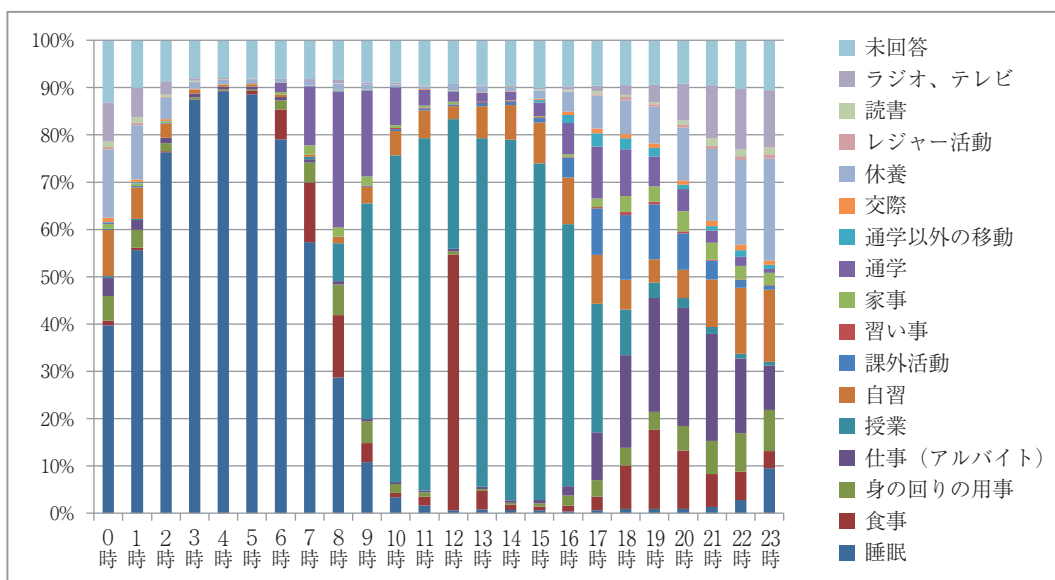
E. 学生生活

■ 1日の生活行動について

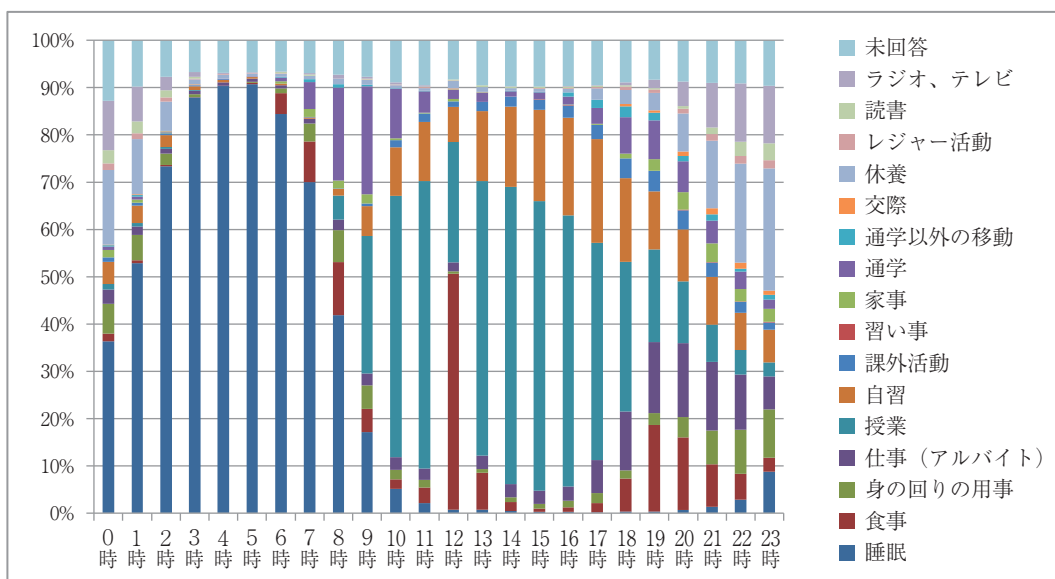
ほぼ授業中心の生活で、自習時間も確保されている

学部生、大学院生とも午前1～2時には大多数が睡眠に就いていることは共通しているが、起床時間については、大学院生の方が若干遅いようである。これは、大学院生の講義が一年次に集中していることと研究室活動が比較的遅い時間帯まで行われていることが影響していると思われる。9時から18時にかけては、授業に出席するか、自習（学部4年生、大学院生は研究を含む）をしている学生が多い。アルバイトをしている学生は、18時～23時の間で勤務することが多いようである。また、日本人に比べて留学生の自習をする時間の割合が多いようである。

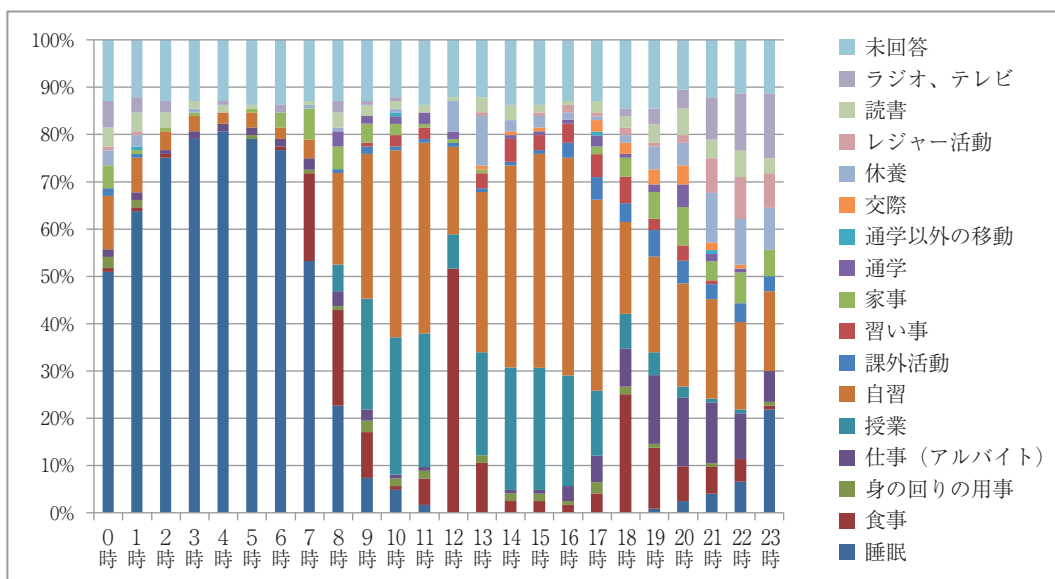
学部生（日本人）



大学院生（日本人）



留学生

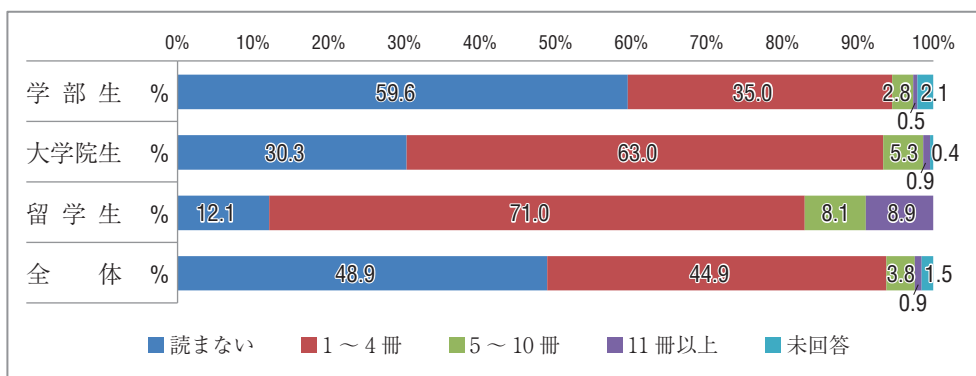


■読書について

学部生よりも院生，日本人よりも留学生の読書量が多い傾向

学部生に比べて大学院生の方がより多くの本を読む傾向にあり，留学生は日本人学生よりも多くの本を読むという傾向も見取れる。特に専門書，専門雑誌については，学部生は1冊も読まない学生が過半数を占めるのに対し，大学院生は1冊以上読んでいる割合が7割に達している。これは，研究を進める上で専門書，専門雑誌からの知識も必要となることが影響していると思われる。

専門書・専門雑誌

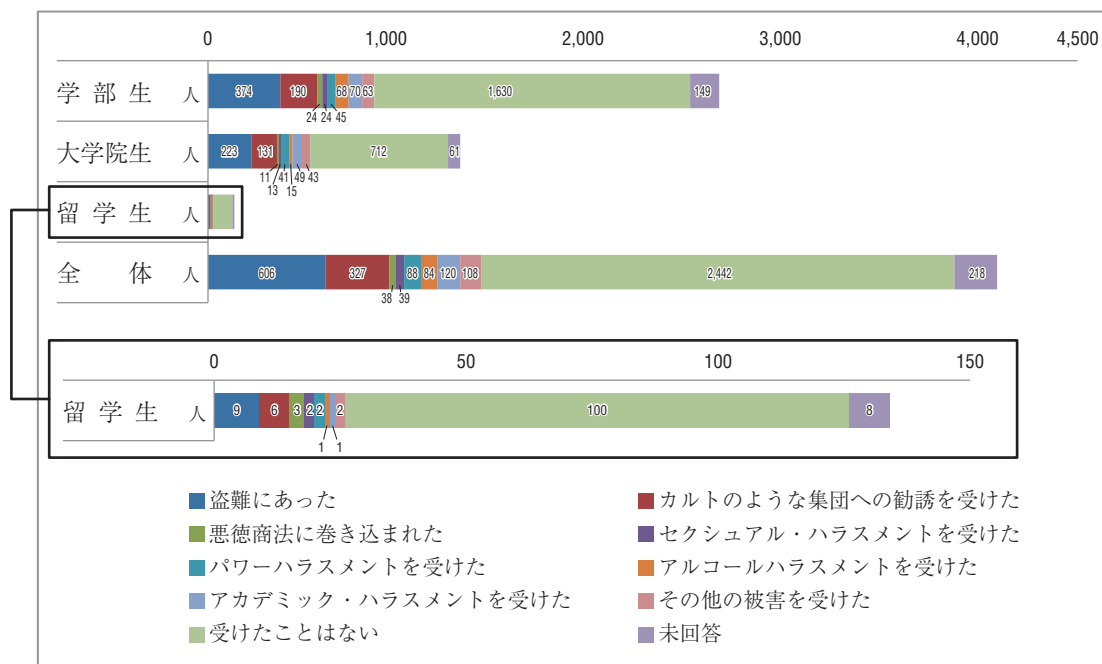


■犯罪被害や迷惑行為について

盗難やカルト集団の勧誘に注意し，かつキャンパスハラスメントを無くすことが必要

犯罪被害や迷惑行為は受けたことがないという学生が多数を占めているものの，盗難被害やカルト集団への勧誘を受けたと回答した学生が延べ人数で900人以上いた。学内では，学生から自転車の盗難被害の届け出が年に数件あり，その多くが無施錠であったことから，可能な限り二重ロック等により自ら被害防止に努める必要がある。また，アカデミックハラスメント等のキャンパスハラスメントを受けたとする回答もあり，防止活動を強化する必要がある。また，被害を受けた時に誰にも相談していない学生がいることから，何でも気軽に相談できるような体制の整備をより一層に努めていく必要がある。

犯罪被害や迷惑行為を受けたことがあるか

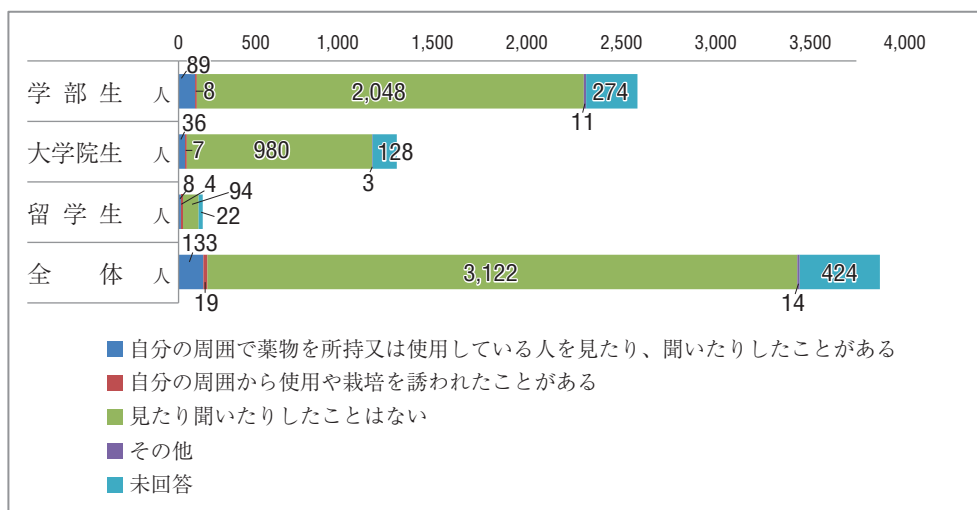


■薬物について

薬物の使用は絶対に行ってはならない

違法な薬物等については、全体の学生数から見れば少数ではあるが、周囲に使用者・所持者の存在があったり、また誘われたりした学生がいたことから、啓発活動をより強化していく必要がある。

薬物について



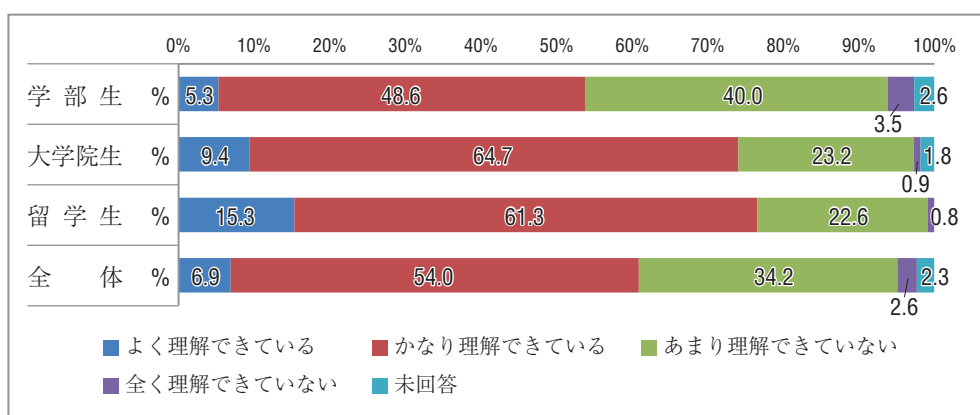
F. 学習状況, 学習支援

■授業について

大学院生と留学生の理解度は高いが、学部生の理解度は 50%程度

授業が理解できているかどうかについて、大学院生と留学生は「よく理解できている」、「かなり理解できている」と回答している学生がともに 75%程度であるのに対し、学部生は 54%にとどまっており、半数程度の学部生が授業内容をあまり理解できていないことがわかる。満足できる授業がどの程度あるかについての設問には、「40%未満」と回答した学生が、学生全体で 36%であるのに対して、留学生は 15%にとどまっており、留学生はおおむね授業に満足していることがうかがえる。授業に満足できない理由としては、述べ 2,810 人（回答総数の約 3 分の 1）の学生が「授業内容がわからない、授業が難しすぎる」をあげている。また、「講義に魅力がない」という理由をあげた学生も 2,124 人いる。

授業の理解度

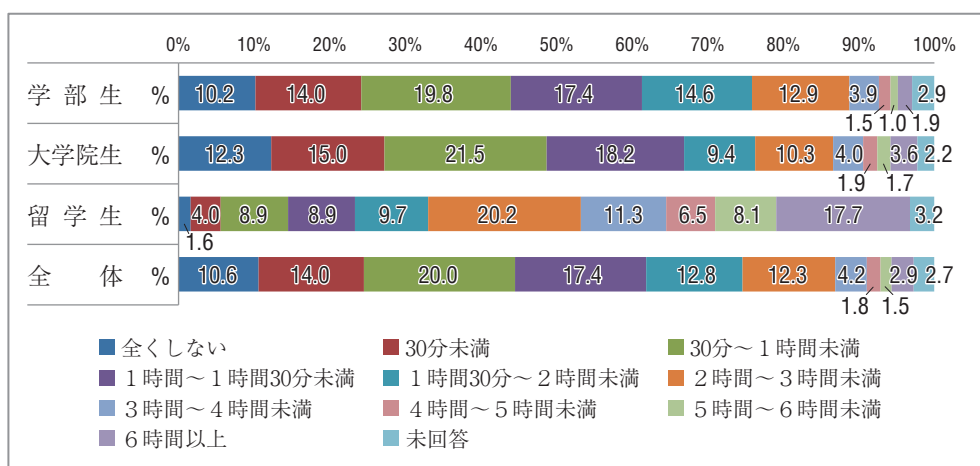


■授業に直接関係しないことについての勉強時間について

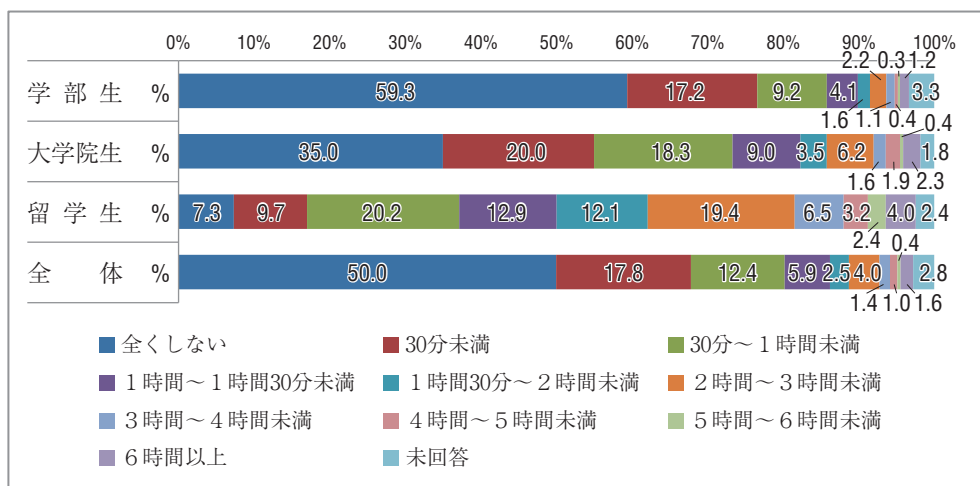
勉強時間は少ないが、半数が何らかの勉強をしている

予習・復習・レポート作成等の授業に関することで一日平均どれくらい勉強しているかについて、「全くしない」と回答した学生は全体で 10%程度いる。また、45%の学生が「1 時間未満」であり、全体的に勉強時間は不足しているようである。また、英会話や資格取得などの授業に直接関係しないことでどの程度勉強しているかについては、50%の学生が「全く勉強しない」と回答している。

授業に関することの 1 日の勉強時間



授業に関しないことの1日の勉強時間



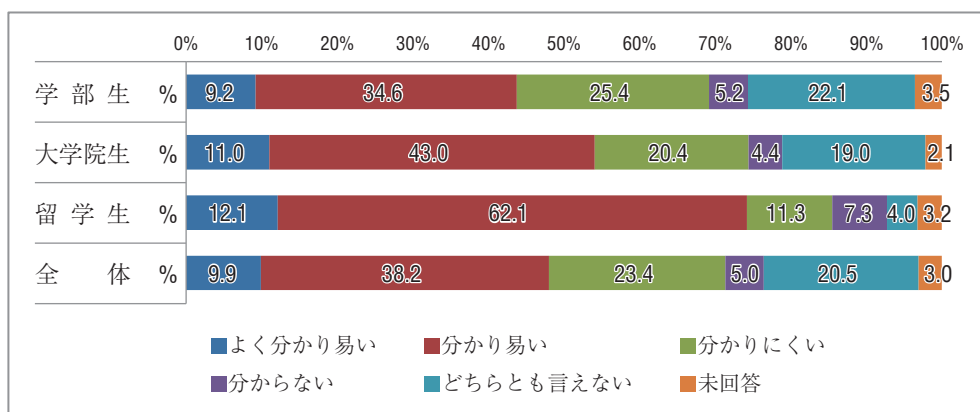
■授業・履修に関する支援について

学部生への支援強化が必要

授業・履修に関するガイダンスやオリエンテーションなどの内容のわかりやすさについては、「よく分かり易い」もしくは「分かり易い」と回答している学生が学部生は45%しかいないのに対し、留学生は74%となっており、大きな差が見られる。なお、満足度については、全体で71%の学生が「十分である」もしくは「まあまあである」と回答していたが、「あまり十分とはいえない」もしくは「全く不十分である」と回答した学生も全体で26%となっていた。

また、学生便覧やシラバスについては、全体で53%の学生が「よく利用する」もしくは「時々利用する」と回答していたが、35%の学生は「あまり利用しない」と回答していた。満足度については、全体で78%の学生が「十分である」もしくは「まあまあである」としており、高い満足度が得られている。

授業・履修に関するガイダンスやオリエンテーションなどのわかりやすさ



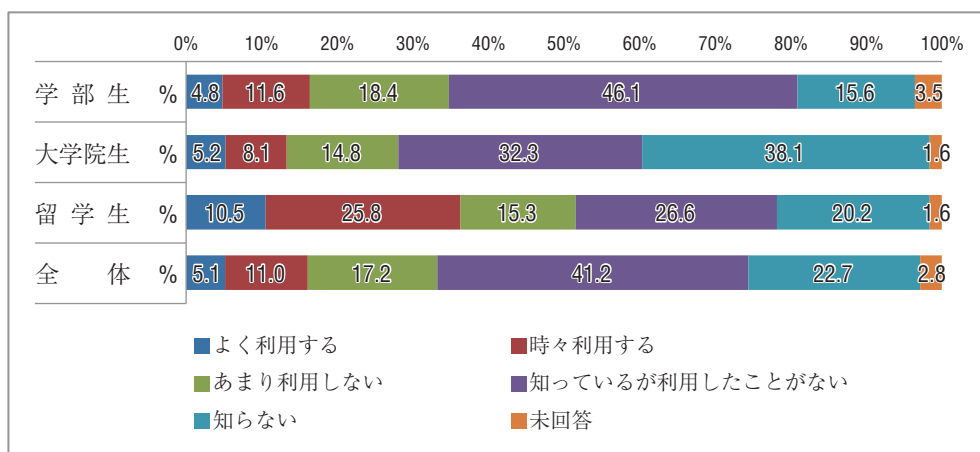
■学生関係部局、学習支援室等の利用について

ほぼ良好であるが、学習支援室等は更なる利用拡大が望まれる

学生関係部局（学務部、各部局の学生係及び学務係、大学院係、保健センターなど）の学生の昼休み時間に対応した窓口サービスなどの便宜供与については、全体で53%の学生が「よく利用する」もしくは「時々利用する」としており、満足度についても全体で75%の学生が「十分である」もしくは「まあまあである」としている。

一方、本学の図書館に設置している学習支援室（情報工学部では学習コンシェルジェ・ステーション）については、「よく利用する」もしくは「時々利用する」としている学生は全体で16%であり、利用している学生の割合は少ない。ただし、必要性については、全体で60%の学生が必要であることを認識しており、満足度も「十分である」もしくは「まあまあである」と回答している学生が65%となっている。

学習支援室の利用頻度



G. 課外活動（日本人学生）

■サークル活動について

サークル活動の意義を感じている学生は多い

工学部には13団体の文化系サークル、27団体の体育系サークル、35団体の同好会があり、情報工学部には14団体の文化系サークル、19団体の体育系サークル、29団体の同好会がある。

何らかのサークルに参加している学部学生は64.7%に達し、28.1%が文化系サークルに属し、36.6%が体育系サークルに属している。また、いずれのサークルにも属したことがない学部学生は19.1%である。一方、45%の大学院生がサークル活動をしていて、34.7%の大学院生がいずれのサークルにも属していない。

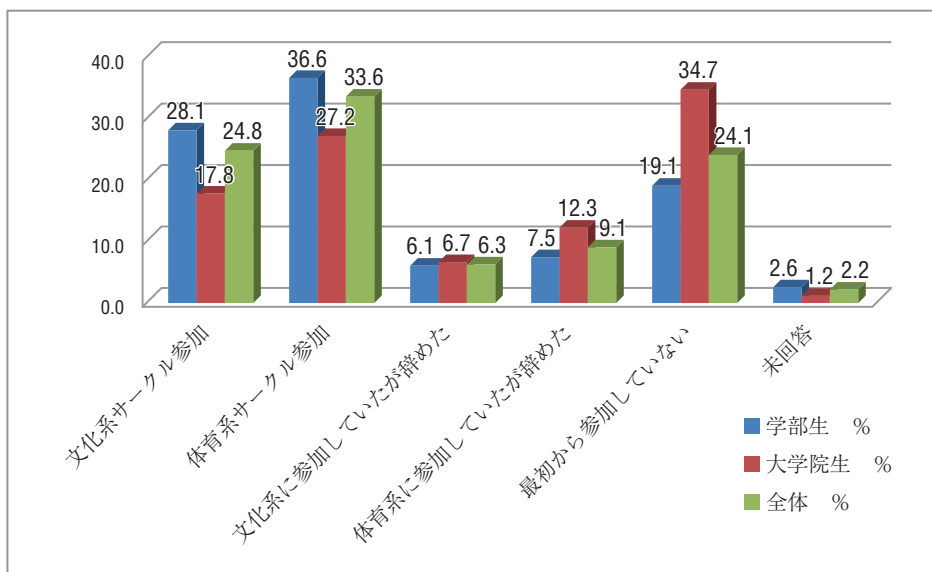
学業とサークル活動との関係について、多少なりとも学業が犠牲になっていると答えた学部学生は20.7%、大学院生は10.4%であるが、「犠牲にはなっていない」「プラスになっている」と答えた学部学生は79.1%、大学院生は89.2%に達している。

サークルに加入した理由として最も多かったのは「趣味と一致している」29%であり、「友人が欲しい」16%がそれに続く。

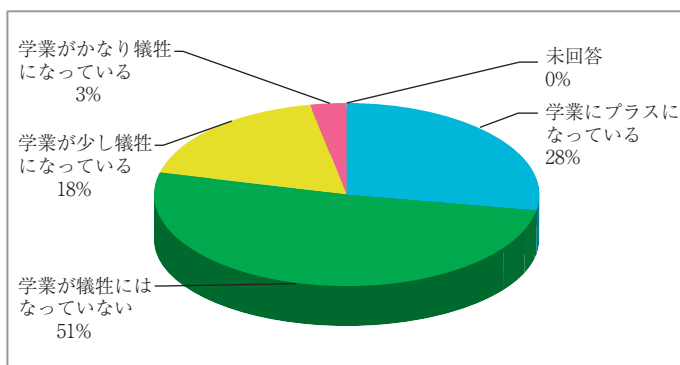
いずれのサークルにも属していない理由としては、学部学生では「時間がない」24.2%、「自分に適したサークルがない」20.1%、「拘束されたくない」19.9%が多い。大学院生の理由も同ような傾向

が見られる。また、11% 強の学部学生・大学院生が「学業の妨げになる」ことを加入していないこと
の理由としている。

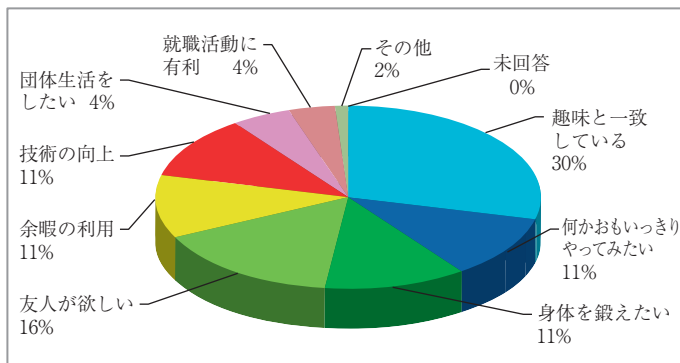
サークルに参加していますか



学業との関係（学部学生）



加入動機



H. 留学

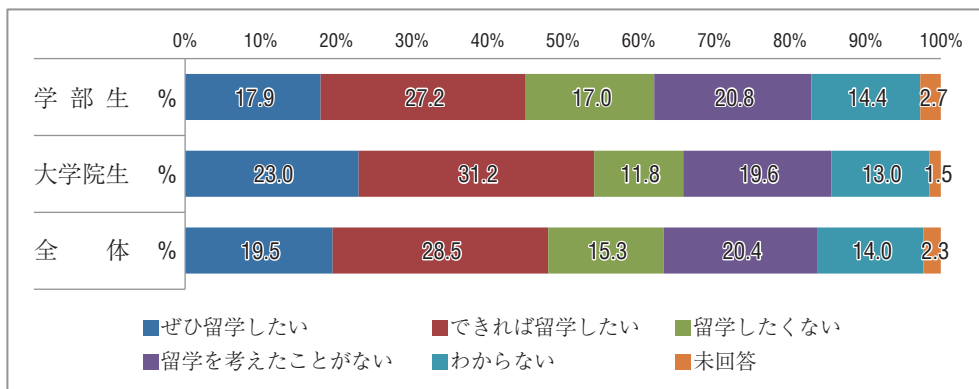
■海外留学について（日本人学生）

留学意識は半々で、学生の意識は二分化されている

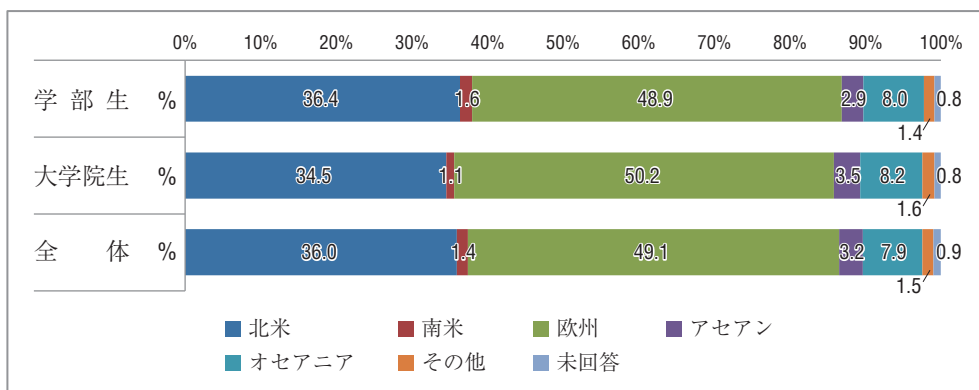
「ぜひ留学したい」と「できれば留学したい」をあわせれば、学部生で45%、院生で54%と学生の留学に対する意識は高いように思える一方で、「留学したくない」と「留学を考えたことがない」をあわせて、学部生が38%、院生が31%とやや高く、学生の意識も二分化している。留学してみたくない理由は、興味がないという理由がもっとも多く、学生たちへの動機付けを検討すべきと考える。

留学してみたい地域は、学部生、院生とも北米、欧州でそれぞれ85%と圧倒的に高い。

海外留学の希望



行きたい留学先

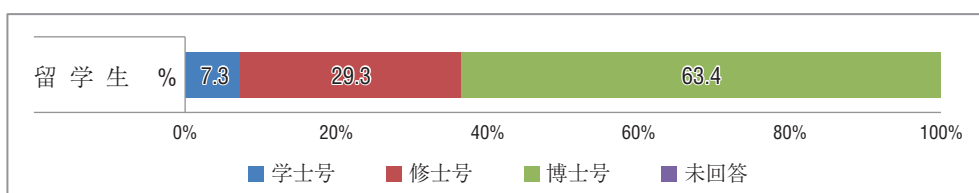


■日本留学について（外国人留学生）

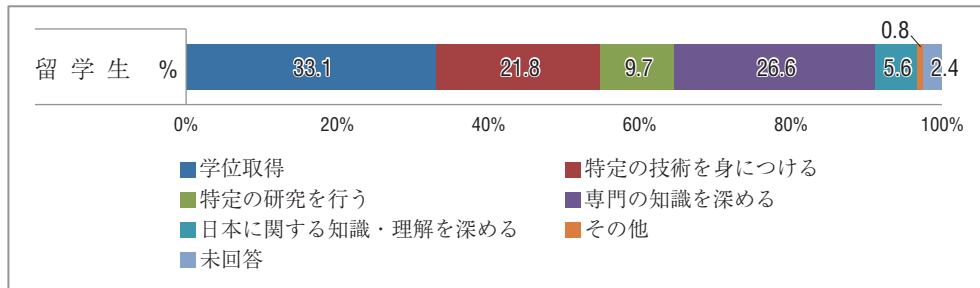
留学目的は、学位や専門知識の習得

日本留学の目的は、学位取得、特定の技術を身につける、専門の知識を身につけるという個人レベルの理由が圧倒的である。

取得したい学位

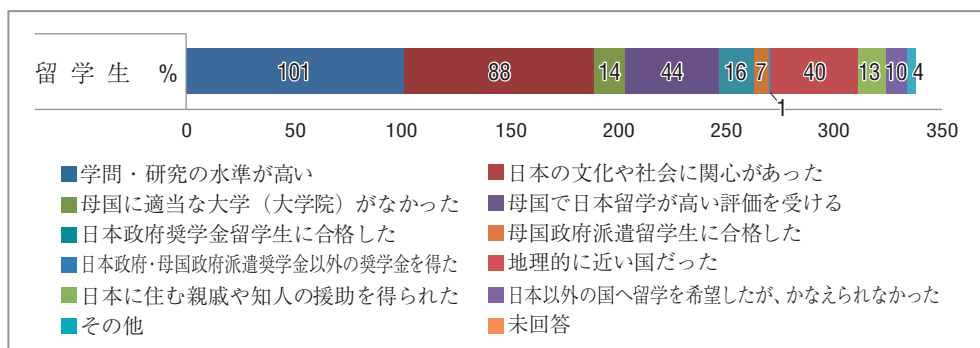


日本留学の目的



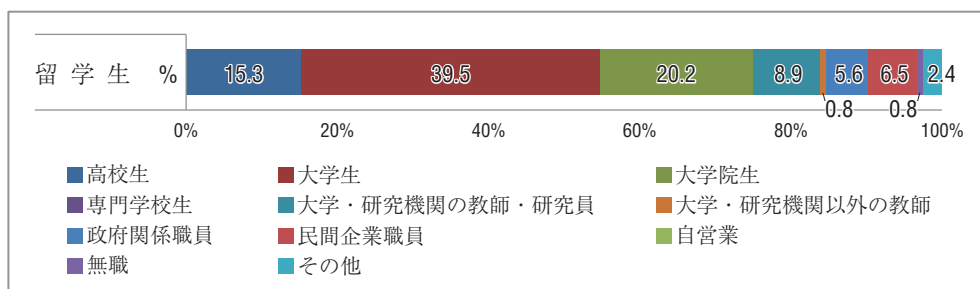
日本を留学先に選んだ理由として、①学問・研究の水準が高い、②日本の文化や社会に関心があった、③母国で日本留学が高い評価を受ける、④地理的に近い国だったという理由を挙げる留学生が多い。

日本を留学先に選んだ理由



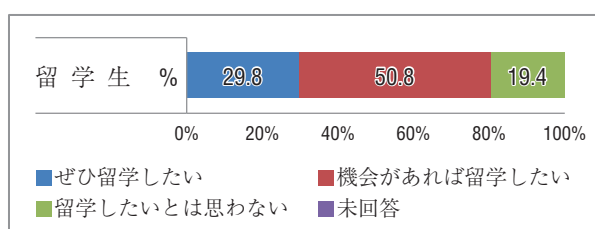
留学する前の職業は大学生、大学院生が圧倒的に多い。社会人の受け入れも考えるべきと考える。来日前に日本語を学んだ時間はたいへん短い。留学後も日本語教育を充実すべきと考える。

日本へ留学する前の職業

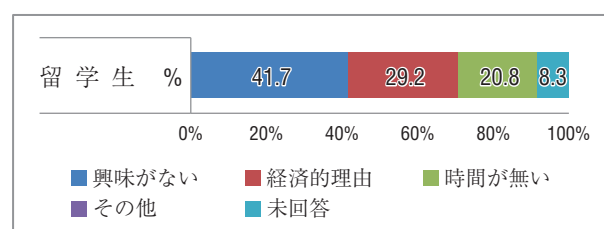


留学生が日本以外の国へ留学したいかという質問に対し、留学の意欲は、非常に高いが一方で、留学したいと思わない学生が20%近い。その理由のうち興味がないが40%になっている。

日本以外の国に留学してみたいか



留学したいとは思わない理由



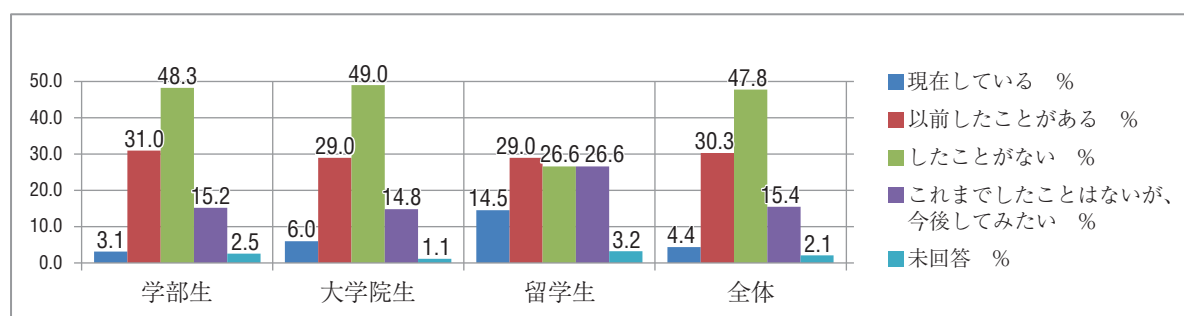
Ⅰ. ボランティア活動

■ボランティア活動について

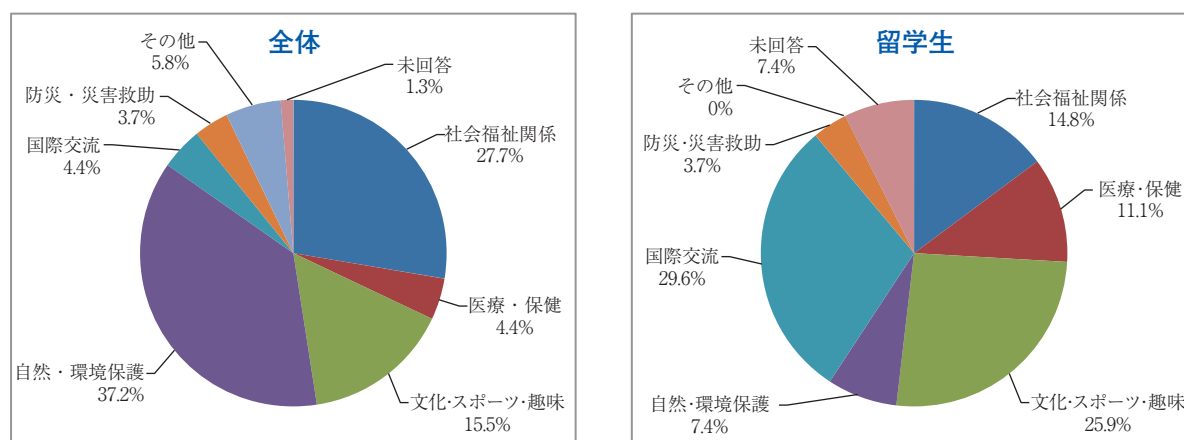
二人に一人はボランティアの経験は無い

学生全体の35%がボランティア活動を行ったことがある、あるいは現在も行っていると回答している。また、15%の学生は今後してみたいとの意欲を示している。ボランティア活動の内容は「自然・環境保護」(37%)が最も多く、「社会福祉関係」(28%)、「文化・スポーツ・趣味」(16%)と続く。回数としては、「1年に1回程度」(43%)が最も多いが、「1ヶ月に1回程度」(16%)や「1週間に1回程度」(11%)と比較的頻繁に参加している学生もいる。留学生では、「国際交流」(30%)が最も多く、回数も「1週間に1回程度」が26%と最も多く、留学生特有の傾向が見られる。

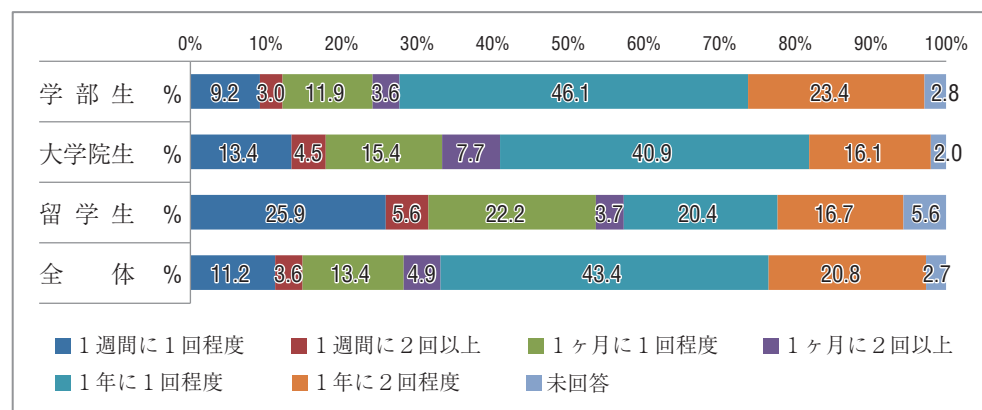
ボランティア活動の経験の有無



ボランティア活動の内容（ボランティア活動をしているまたはしたことがある人のみ）



ボランティア活動の回数



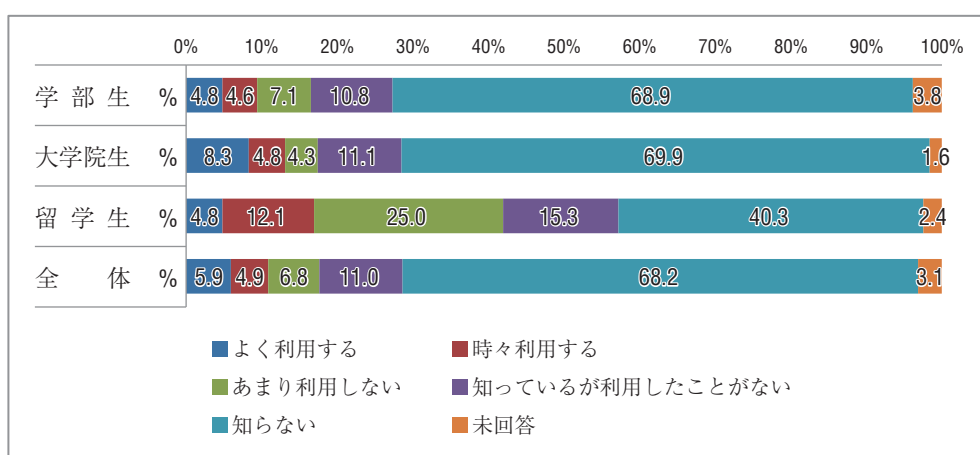
J. 自主的活動支援

■自主的活動支援について

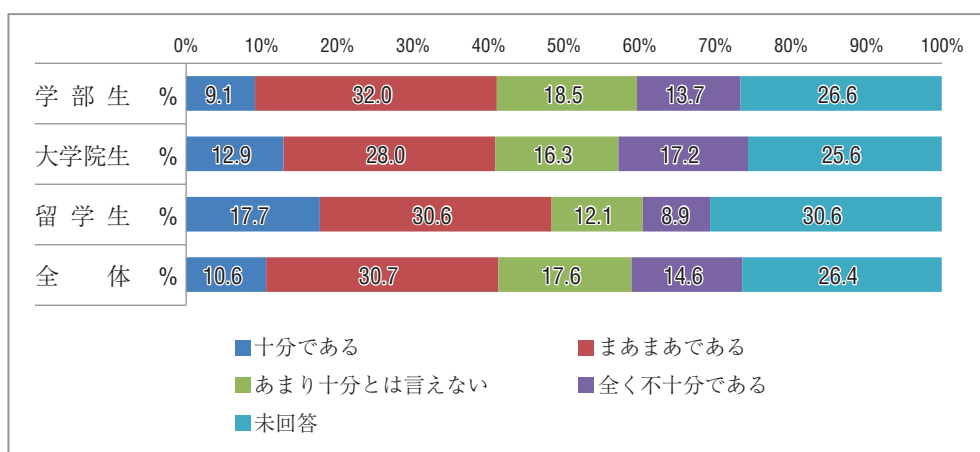
「夢プラン」は、さらに学生への周知が必要

ロボットコンテスト等の技術系競技会参加やエコプロジェクト、地域活性化プロジェクト等の地域貢献活動を目指す学生グループに対して、1団体200万円を限度として活動経費を支援している（H24年度までは「夢プラン」、H25年度からは「学生プロジェクト」と名称変更）。このような、学生の任意のグループが、自主的に企画し実施するプロジェクト活動への支援について、「よく利用する」と「時々利用する」を合わせて10.8%である。さらに、「あまり利用しない」や「知っているが利用したことがない」を合わせると約3割の学生がこの支援制度を知っているが、約7割の学生はこの制度を知らない。この自主的活動支援に関しては、さらに学生への周知が必要である。

利用の頻度



満足度・充実度

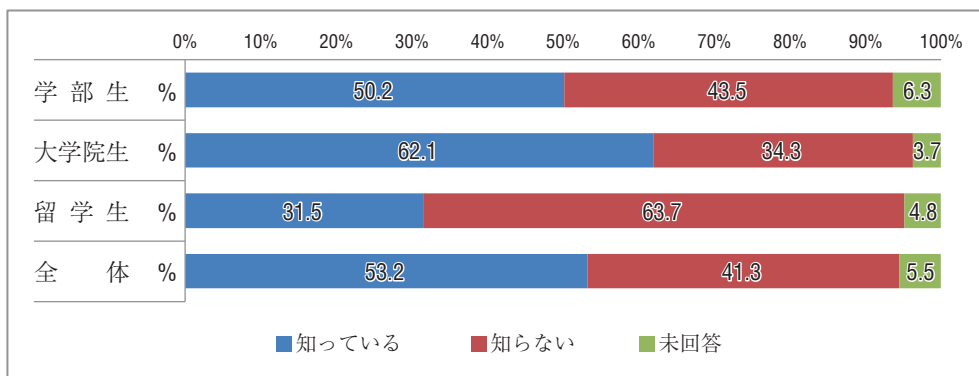


■学長表彰制度，授業料特別免除制度について

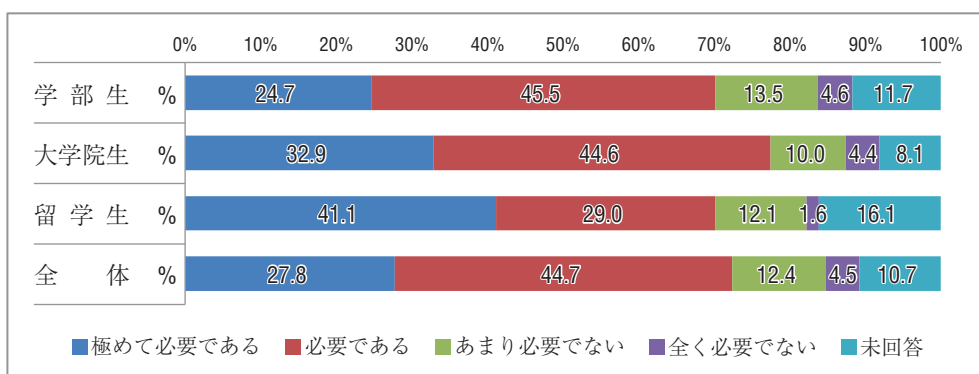
必要性を感じている学生が多い

学長表彰制度（課外活動での顕著な成果, 成績優秀者等）については, 半分以上の学生が知っている。また, 「極めて必要である」と「必要である」を合わせて学生の 72.5% が必要と回答していることから, 学生にこの制度が受け入れられていることがわかる。

認知度

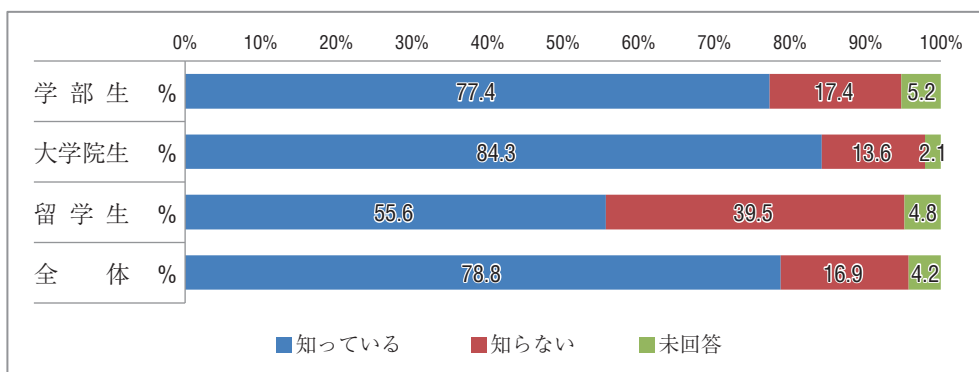


必要性

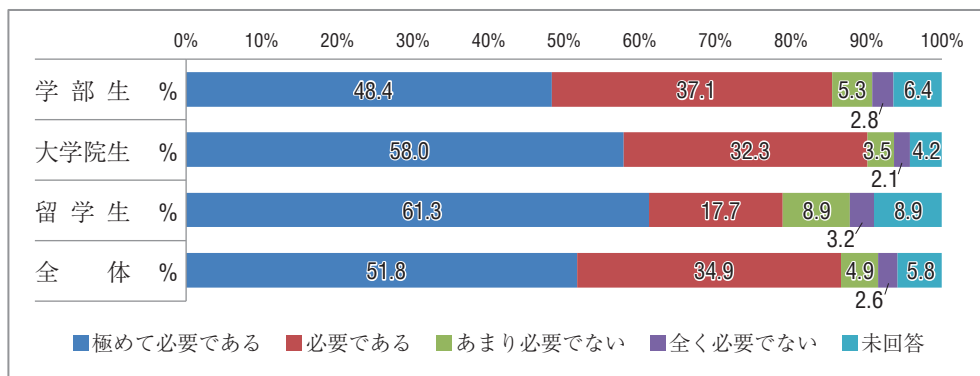


授業料特別免除制度については, 約 8 割の学生が知っている。留学生の認知度は日本人学生に比べてやや低く, 留学生に対してはさらに周知が必要である。また, 「極めて必要である」と「必要である」を合わせて 9 割近くの学生がこの制度を必要としている。

認知度



必要性



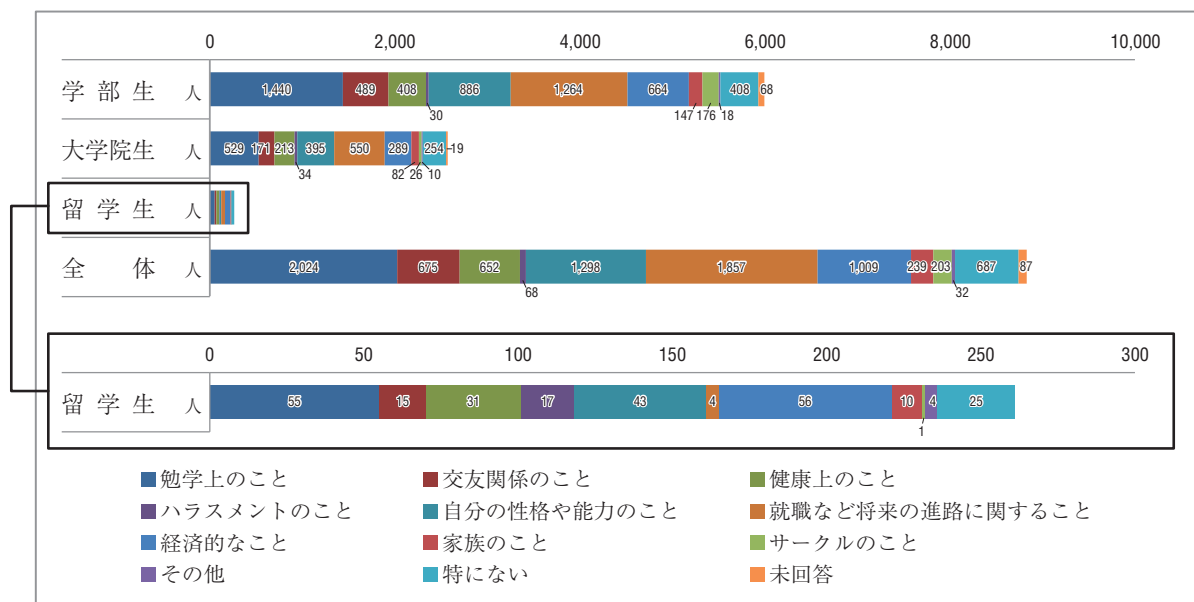
K. 悩み、健康等

■ 悩みについて

勉学、就職、自分の性格についての悩みが目立つ。留学生は経済的な悩みが多い

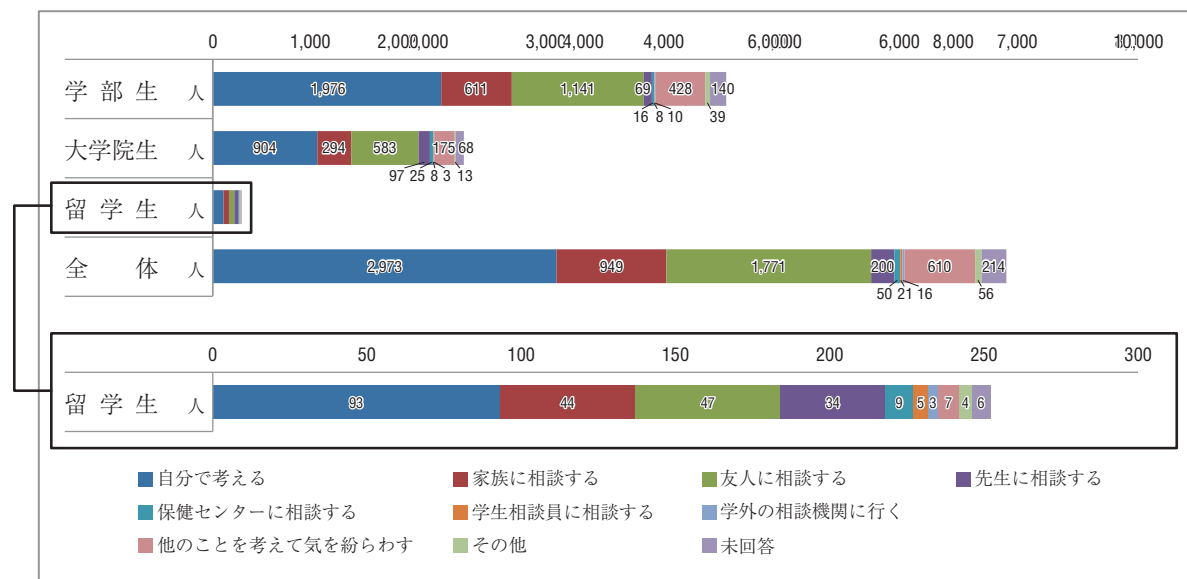
悩みについては、多数の学生が何らかの悩みを感じている。悩みの種類については、学部生および大学院生において、「勉学上のこと」が1,440人および529人、「就職など将来の進路に関すること」が1,264人および550人と主要な悩みとなっている。次いで、「自分の性格や能力のこと」が886人および395人となっている。留学生では、「経済的なこと」が56人と最も高く、次いで「勉学上のこと」が55人になっている。

悩みの種類



悩みの対処法としては、学部生、大学院生および留学生ともに、「自分で考える」が最も多く、次いで「友人に相談する」、「家族に相談する」という順になっている。留学生は、「先生に相談する」が34人であり、学部生（69人）や大学院生（97人）に比べ高いのが特徴的である。

悩みの対処法

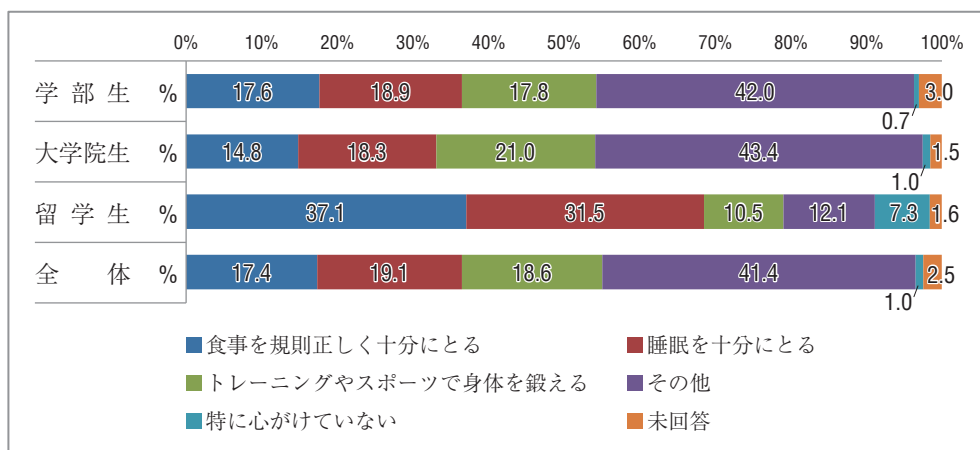


健康について

健康への関心は総じて高い

全体の96.5%が何らかの方法で自分の健康に心がけている。具体的方法として、学部生および大学院生では「食事を規則正しく十分にとる」、「睡眠を十分にとる」、「トレーニングやスポーツで身体を鍛える」で約6割を占めている。留学生では、「食事を規則正しく十分にとる」が最も高く、「睡眠を十分にとる」、「その他」の順となっている。

健康について

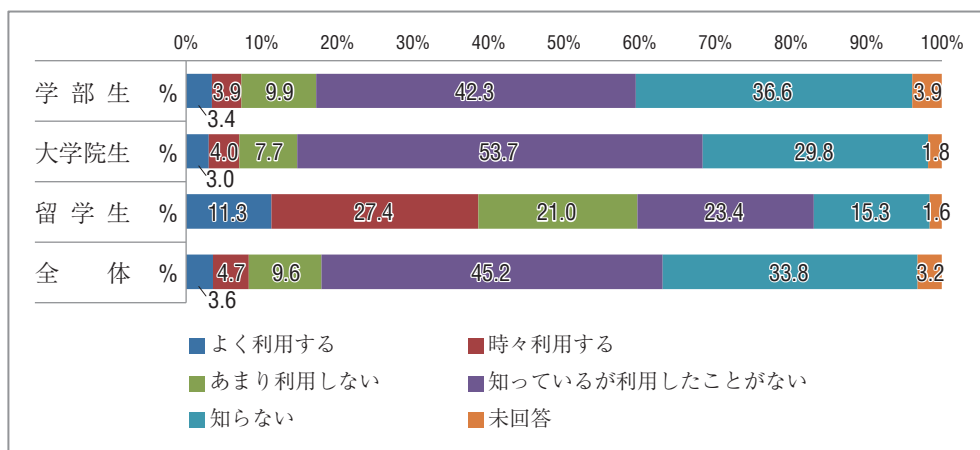


学生相談について

留学生の利用率が高く、その必要性和評価も高い

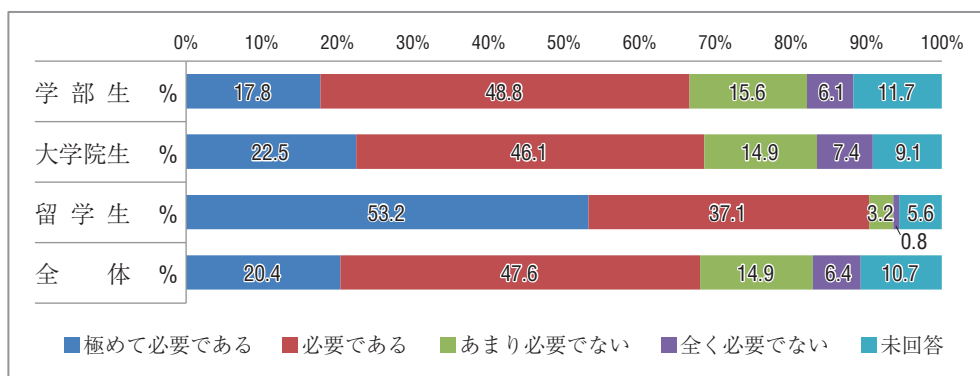
学生相談員については、全体で17.9%が利用したことがある一方、33.8%は知らないと回答している。特徴的なのは、留学生の約60%は利用したことがあり、「知っているが利用したことがない」を含めると83.1%となっている。留学生は、学部生および大学院生に比べ学生相談員を有効に活用していることが見て取れる。

利用の頻度



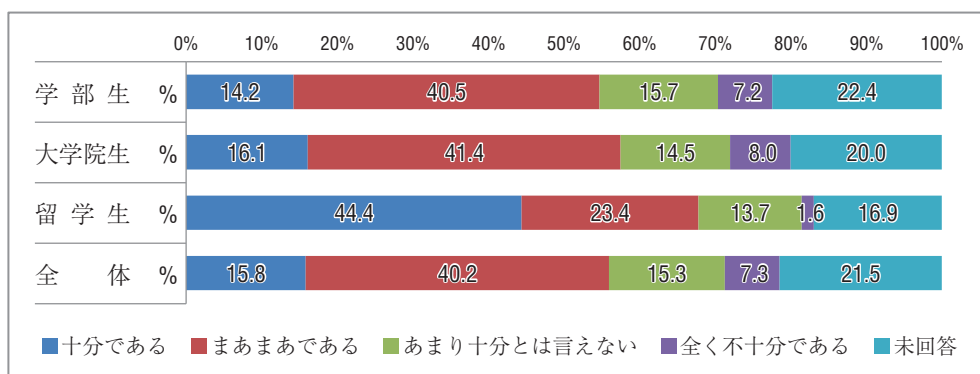
学生相談員の必要性については、全体で「極めて必要である」と「必要である」を合わせて68.0%と高い。特に、実際に利用したことがある割合が高い留学生の約90%が学生相談員の必要性を認めている。

必要性



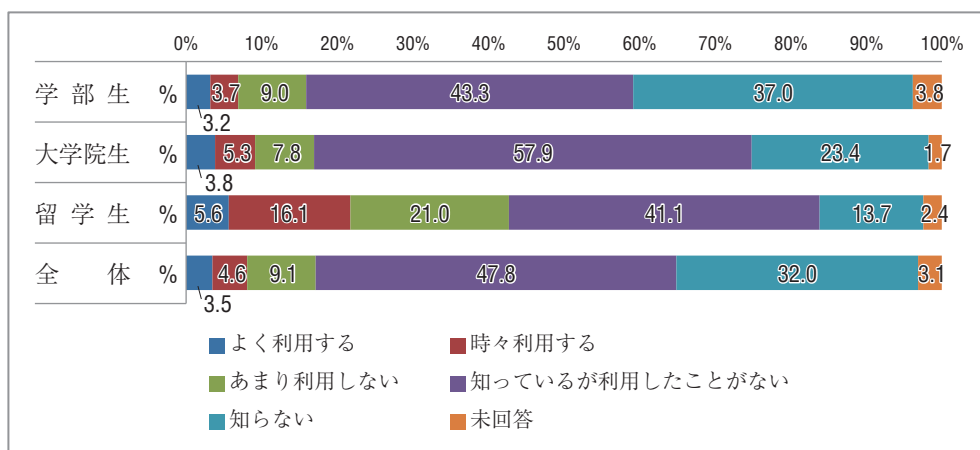
学生相談員の満足度・充実度については、全体で「十分である」と「まあまあである」を合わせて56.0%である一方、「全く不十分である」が7.3%となっている。学部生および大学院生は、「まあまあである」の回答が最も多く、留学生では、「十分である」が44.4%と最も多い。

満足度・充実度



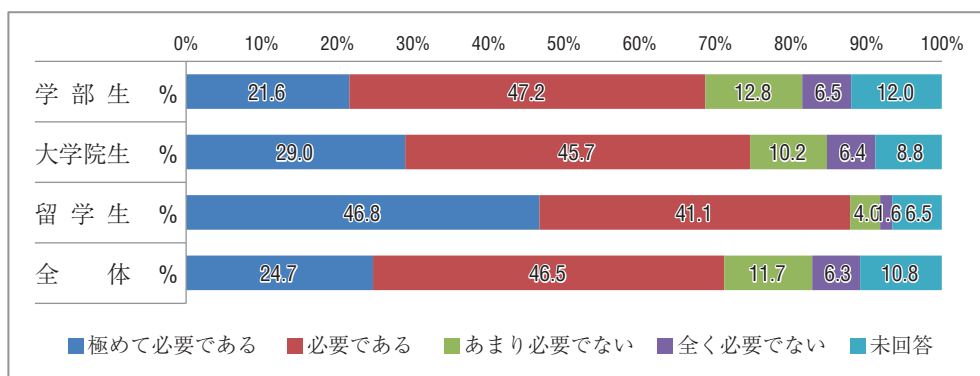
保健センターで対応するメンタルヘルスに関する相談とカウンセリングについては、利用したことがあるのは全体で17.1%、「知っているが利用したことがない」が47.8%となっている。留学生の利用頻度は、「よく利用する」、「時々利用する」を合わせて21.7%と学部生(6.9%)および大学院生(9.1%)に比較し高く、学生相談員と同様にカウンセリングは留学生にとって有用であることが伺える。

利用の頻度



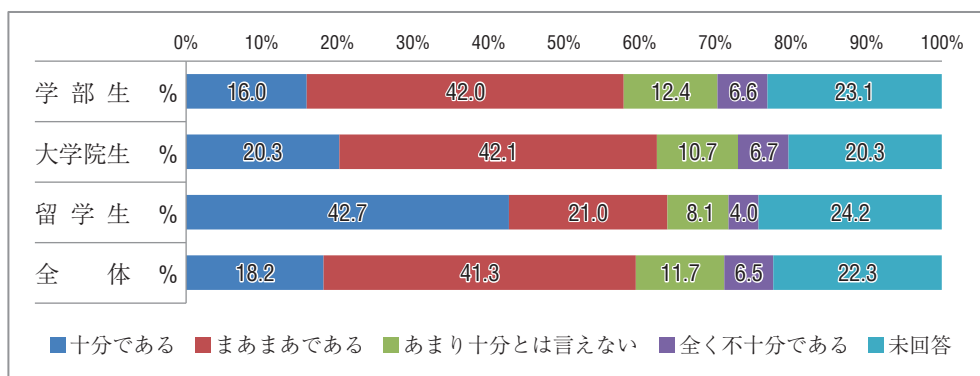
保健センターで対応するメンタルヘルスに関する相談とカウンセリングの必要性については、学部生および大学院生において「極めて必要である」、「必要である」を合わせて約70%以上が必要であると回答している。特に留学生では、約90%が必要性を認めている。

必要性



保健センターで対応するメンタルヘルスに関する相談とカウンセリングの満足度・充実度については、全体で「十分である」、「まあまあである」と回答しており、学生の約60%が好回答をしている。

満足度・充実度



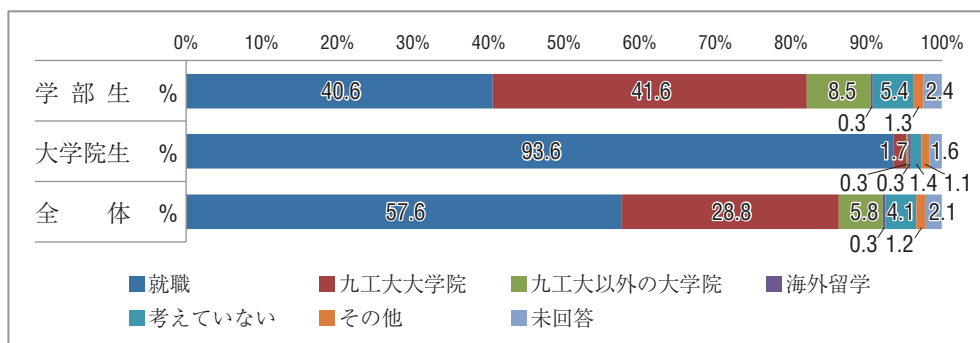
L. 進路、就職支援

■進路について

指導教員、就職担当教員、そして先輩・知人からの情報を参考にする学生が多い

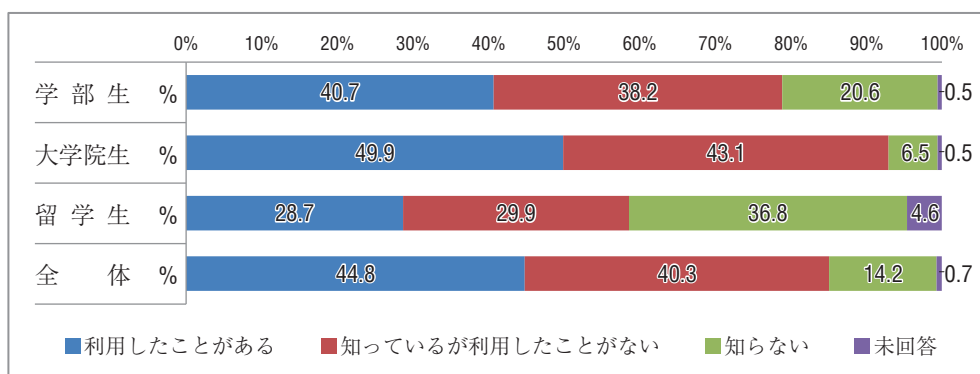
卒業後の進路について、学部生においては、大学院進学（他大学も含む）が50%と、就職希望の40%を上回っている。また、大学院生においては、その大半の約94%が就職希望である。

卒業後の進路



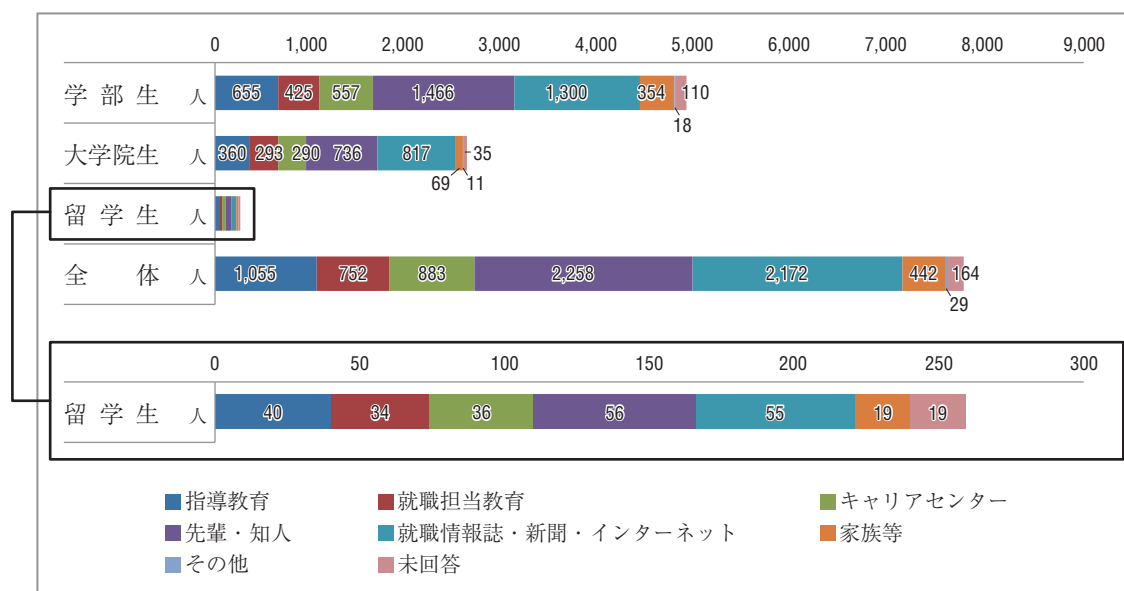
キャリアセンターについて、学生全体の85%が認知していた。ただし、留学生では、キャリアセンターの存在を知らない割合が日本人学生よりも高かった。また実際に利用したことがある学生の割合は大学院生の方が学部生よりも多いが、いずれも50%未満に留まった。

キャリアセンターの認知度



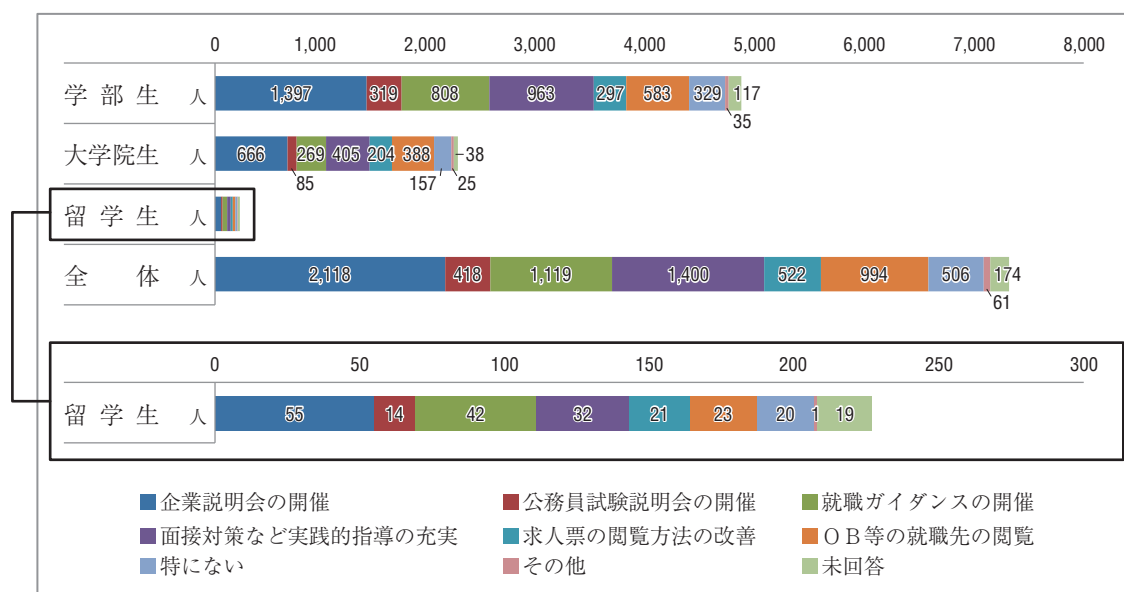
進路を考える上での情報入手手段として、学生全体では、「先輩・知人」からの割合が最も大きく、次に、「就職情報誌・新聞・インターネット」となっている。それ以外にも「指導教員」や「就職担当教員」からの指導、「キャリアセンター」の利用、「家族」からの情報等、幅広い経路から情報を入手していることがわかる。

情報入手手段



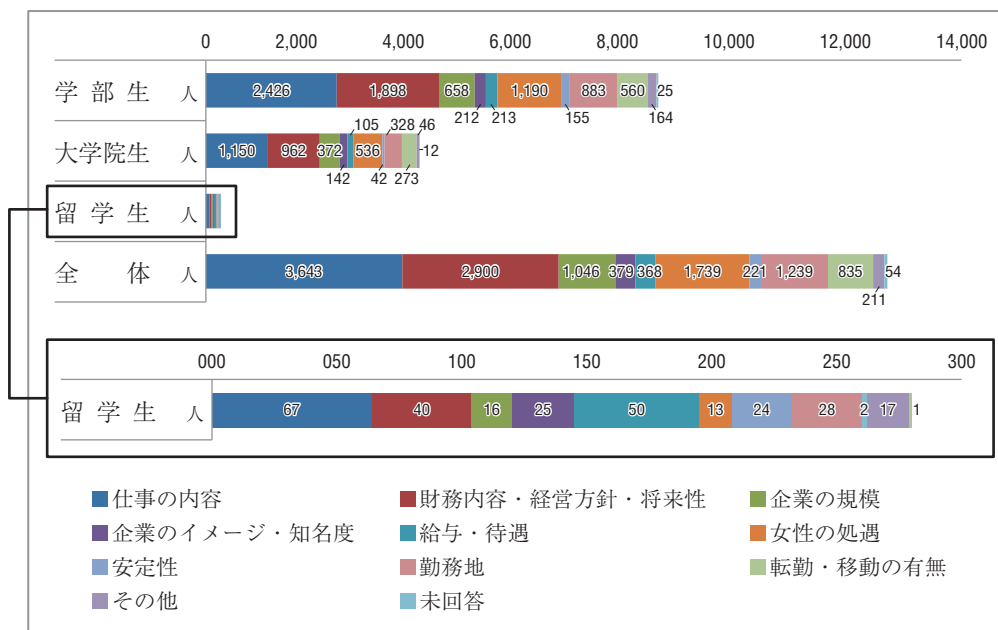
就職支援に関し大学に希望するものとしては、学生全体では、「企業説明会の開催」が最も多く、次いで「面接対策など実践的指導の充実」、「就職ガイダンスの開催」、「OB等の就職先の閲覧」と続き、「求人票の閲覧方法の改善」や「公務員試験説明会の開催」を求める声もみられた。

大学に希望するもの



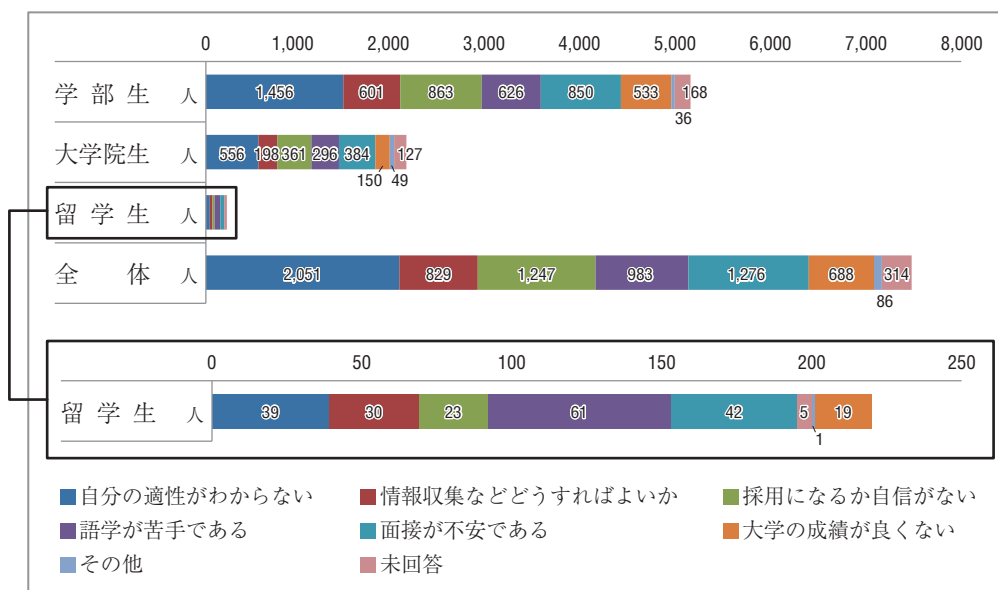
就職する場合に重視する項目としては、学生全体では、「仕事の内容」が最も多く、次いで「財務内容・経営方針・将来性」、「女性の処遇」、「勤務地」、「企業の規模」の順であった。それ以外の回答としては、「転勤・異動の有無」、「企業のイメージ・知名度」、「給与・待遇」、「安定性」を挙げる学生があった。

重視する項目



就職に関して不安に思っていることについて、「自分の適性がわからない」という声が学生全体で最も多く、特に学部生において顕著であった。また、「採用になるか自信がない」、「面接が不安である」というメンタル面での不安が、「語学が苦手である」、「情報収集などどうすればよいか」、「大学の成績が良くない」といった要素を上回った。

不安要素

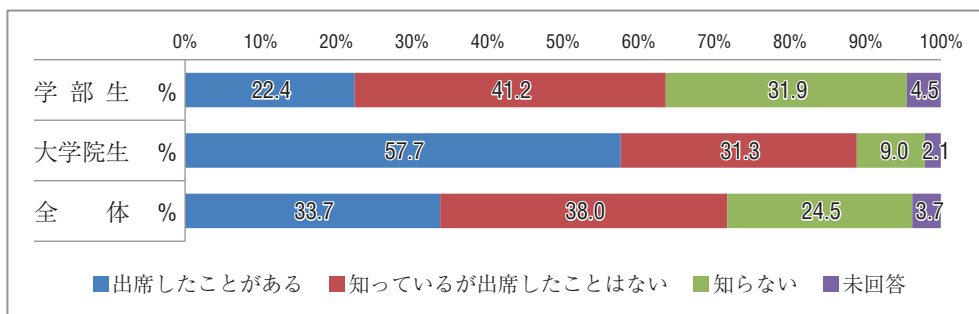


■就職支援について

大学院生でも就職セミナーに参加したことの無い学生が4割もいる

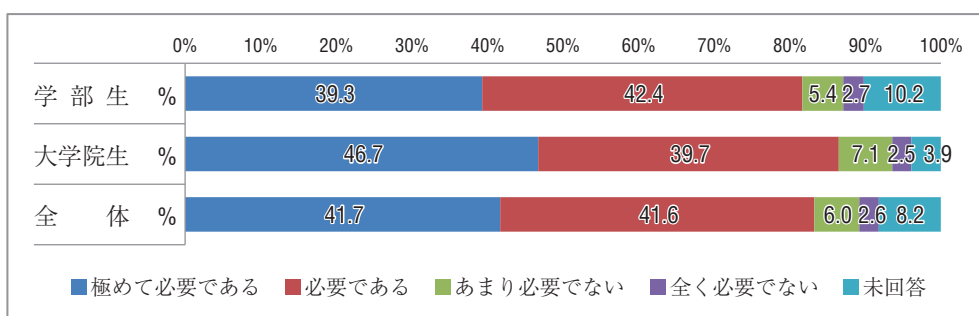
就職セミナーまたはトップセミナーについて、学生全体でその利用頻度をみると、「知っているが出席したことはない」が38%、「知らない」が24.5%であり、合わせると「出席したことがある」学生の割合を上回った。

利用頻度



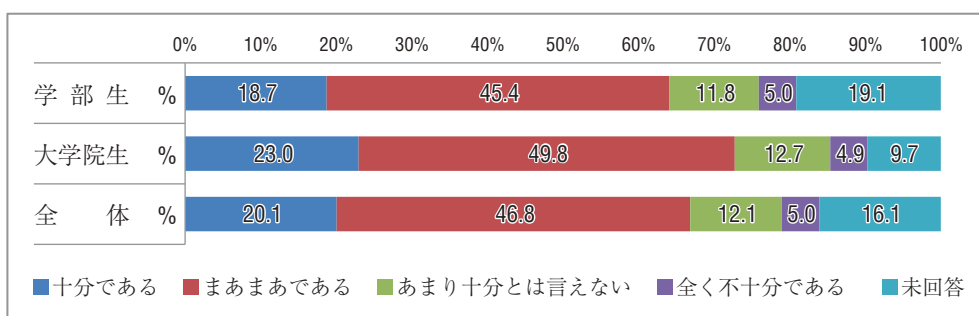
また、その必要性については、「極めて必要である」、「必要である」をあわせて80%を超えており、学部生と大学院生のいずれも高く必要性を認めていることが伺える。

必要性



一方、満足度・充実度については、「十分である」、「まあまあである」との回答をあわせて約70%近くの学生が好評価している。

満足度・充実度



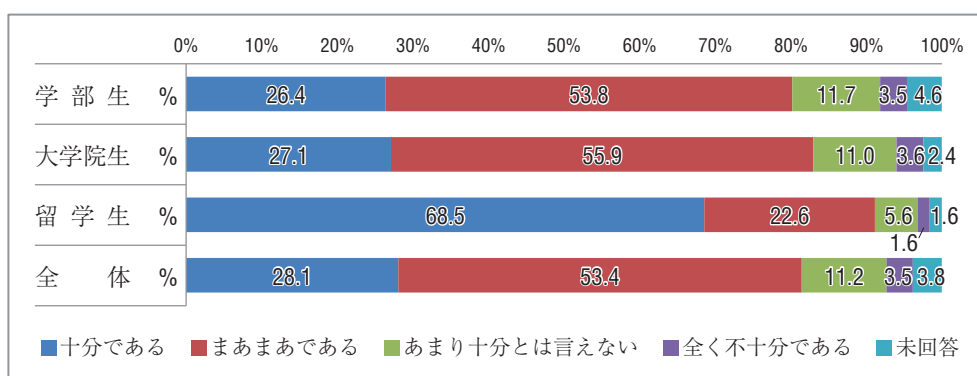
M. 危機管理支援

■キャンパス内での安全対策について

安全対策についてはほぼ満足されている

警備員の配置，外灯の増設，女子トイレの非常ベルの設置などキャンパス内での安全対策については，全体で約80%強の学生が「十分である」，「まあまあである」の回答をしている。特に，留学生では，「十分である」，「まあまあである」の回答合わせて91.1%の学生が好評価をしている。

満足度・充実度



N. おわりに

調査の最後に，学生の皆さんに大学に対する要望や意見を求めたところ，非常に多くの要望等をいただきました。

学部生では，授業に関する意見や教室・実験等の教学関係施設の環境改善を求める要望が多くありました。学部生・大学院生共通して，食堂の混雑等，学生食堂・福利厚生等に対する意見が多く見受けられました。学生生活全般に対する意見では，全学的に駐輪場や駐車場の増設，整備等が求められていると分かりました。

この意見等を参考に修学支援，福利厚生や課外活動等への支援，環境の改善を図っていきたいと思います。

